

中学校の先生のための

保健体育科 授業づくり ハンドブック

～授業設計力向上にむけて～



令和3年 8月

神奈川県立総合教育センター
体育指導センター

はじめに

教師が身に付けるべき力の1つに、「授業をつくる力」(本ハンドブックでは**授業設計力**という)があります。

しかしながら、「どのように授業をつくれればよいのか？」と日々悩まれている先生も少なくないのではないのでしょうか。まず、学習指導要領や同解説を読むことから始まり、単元で扱う運動やスポーツの特性等を理解すること、指導内容を明確にし、評価規準を設定すること、そして具体的な学習活動や発問を考えることなど、一連の授業づくりは本当に大変なことだと思います。そのような先生方の授業づくりの一助になればと思い作成したのが、この「保健体育科授業づくりハンドブック」です。昨年に発刊した「小学校の先生のための体育科授業づくりハンドブック」に引き続き、今回は「中学校の先生のための保健体育科授業づくりハンドブック」となります。

授業をつくる際、「何を教えたらいいの?」、「どうやって教えたらいいの?」といったことを考えるかと思います。本ハンドブックは、授業づくりの手順書として作成してあります。「単元計画」の作成の仕方や、その過程に関わる学習指導要領及び同解説(保健体育編)や中央教育審議会答申、文部科学省発行資料などに記載されている用語の説明、評価についての考え方や年間指導計画の立て方など、授業づくりに必要な情報が盛り込まれたハンドブックとなっています。

なお、本ハンドブックでは、文部科学省国立教育政策研究所発行の資料(「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校 保健体育)を基に(一部修正あり)、説明を加えています。

また、当センター(旧:神奈川県立体育センター)が作成した「保健学習ハンドブック<改訂版>(平成24年3月)」、「高等学校保健体育 体育学習ハンドブック~学習指導と評価の計画作成の手引き~(平成25年3月)」それぞれの目的、内容構成を踏襲しながら、平成29年告示の学習指導要領に沿って、「中学校 保健体育」として体育分野・保健分野を1冊にまとめた構成となっています。

日々の授業は学校の教育活動の根幹をなす部分です。ぜひ、このハンドブックを軸に、学習指導要領解説体育編や『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料等を参照しながら、授業をつくっていただき、授業をつくる力(授業設計力)を向上させていただきたいと思っています。



本ハンドブックに示した手順や様式等は、あくまで参考として示したものです。市町村や学校の実態に合わせて、ご活用ください。

◆次の用語は、本ハンドブックでは、次のように省略されています

中学校学習指導要領(平成29年告示)¹⁾ → **要領**

中学校学習指導要領(平成29年告示)解説保健体育編²⁾ → **解説**

まえがき

桐蔭横浜大学 佐藤 豊 教授

学習指導要領が改訂され、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の3つの資質・能力の柱に基づく指導の充実とその結果としての学習評価の充実が求められています。

神奈川県では、旧神奈川県立体育センターが作成した「保健学習ハンドブック＜改訂版＞（平成 24 年 3 月）」、「高等学校保健体育 体育学習ハンドブック～学習指導と評価の計画作成の手引き～（平成 25 年 3 月）」等の資料が、神奈川県内に留まらず全国の多くの教師が参考とし、全国の保健体育の授業の充実を推進してきたことを目にしてきました。

これまで取り組まれてきた先生方の指導と評価の工夫が否定されるのではなく、学習指導要領の趣旨を踏まえて、これまでの実践をベースに、さらによりよい授業づくりの一助になるよう活用されることを切に願います。

2020 年度は、新型コロナウイルス感染症の流行に伴う学校休業もさることながら、「G I G A スクール構想」にみられる急速な I T 社会への劇的変化、S D G s にみられる「一人も取り残さないための社会」の実現など、激動の時代を迎えています。

そうした時代であるからこそ、保健体育の授業の意義をあらためて考え、新たな時代を生きていく子供たちのために、保健体育の授業を通して、汎用的に活用できる資質・能力を身につけていくことが、保健体育に関わる教師の共通の思いではないでしょうか。

最終的には、指導要録という公文書として、観点別学習状況と評価が記録されることとなりますが、結果ではなく、そこに至るプロセスが重要なのだとすべての生徒に伝えていくことが大切なのではないのでしょうか。

そのために、「よりよい授業を提供すること」が私たちにできる最も重要な表現手段と考えると、よりよい授業の要素は、伝えたい指導内容が明確に示されていること、取り組みやすい課題が提供されていること、学びやすい雰囲気が作られていること、学習規律が保たれていることなど多岐に及びます。

伝えたい指導内容は、体育では、技能のみにあらず、思考し課題を解決する力や非認知的能力とも言われる、「学びに向かう力、人間性等」などの、学習指導要領に示された指導内容がこれに当たります。これらを指導する方法は、唯一の方法はなく、常に改良が求められます。

学習評価をするという教師の営みは、結果を他者的に伝えることに重点があるのではなく、「育てるための機能」が最も大切であると考えます。

そのため、「何をどのように指導するのか」が「よりよい授業を提供すること」の肝となると考えられます。

本書では、子供の実態、先生方の経験に応じた授業をつくる力（授業設計力）を重視しています。特に、単元での設計（ユニット・プラン）の構築を高めていくことが、授業づくりの出発点とも言えます。よい設計とよい実践、双方への深い省察によって、「学び続ける」教員の姿勢が、子供たちにとっての学びの指針となると信じています。

目次

はじめに

まえがき（桐蔭横浜大学 佐藤 豊 教授）

本ハンドブックの活用の仕方 P. 3

1 要領改訂の要点 P. 4

（1）育成すべき資質・能力の三つの柱 P. 4

（2）保健体育科改訂の要点 P. 5

（3）保健体育科における見方・考え方 P. 5

（4）「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて P. 5

（5）保健体育科におけるカリキュラム・マネジメント P. 6

2 単元計画の作成 P. 8

3 単元計画のQ & A P. 11

Q 1－1 「内容のまとまり」とは P. 11

Q 1－2 「単元」とは P. 12

Q 2 「単元の目標」の設定の仕方 P. 14

Q 3 「内容のまとまりごとの評価規準」の設定の仕方 P. 15

Q 4 「全ての『単元の評価規準』」の設定の仕方 P. 16

Q 5 「単元の評価規準」の設定の仕方 P. 17

Q 6 「指導と評価の計画」の考え方 P. 19

Q 7 「単元構造図」とは P. 22

Q 8 「本時案」とは P. 22

4 単元計画の例 P. 23

（1）体育分野 P. 23

（2）保健分野 P. 27

5 評価について P. 31

（1）学習評価についての基本的な考え方 P. 31

（2）3観点の評価方法 P. 32

（3）観点別学習状況の評価の総括及び評定への総括の考え方 P. 34

6 解説の読み方（考え方） P. 37

（1）体育分野の記載 P. 37

（2）保健分野の記載 P. 41

（3）指導計画の作成と内容の取扱いの記載 P. 43

7 12年間の学びの系統性	P. 44
系統性を踏まえた指導内容	P. 44
8 年間指導計画の例	P. 49
9 参考資料	
単元構造図のサンプル	P. 51
新型コロナウイルス感染症対策について	P. 53
授業設計力チェックリスト	P. 56
授業の基本チェックリスト	P. 57
授業省察力チェックリスト	P. 59
引用・参考文献	P. 60

授業設計力とは

平成 24 年の中央教育審議会答申「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」では、これからの教員に求められる、専門職としての高度な知識・技能の内容として「新たな学びを展開できる**実践的指導力**」を挙げています。

また、平成 27 年の中央教育審議会答申「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について～学び合い、高め合う教員育成コミュニティの構築に向けて～」では、教員が備えるべき資質能力、そして、生涯にわたって高め続けていく資質能力の一つとして、**実践的指導力**を挙げています。

この**実践的指導力**について、本ハンドブックの研究アドバイザーである佐藤豊氏は、実践的指導力は、**授業設計力**、**授業実践力**、**省察力**から構成されと考えられ、**授業設計力**とは「何を教えるのか」「どのように教えるのか」「どのように評価し次につなげるのか」を一連のプロセスとして俯瞰する資質能力であるとしています。

本ハンドブックでは、授業をつくる力である**授業設計力**の向上を目的として、単元計画の作成を主な内容として構成しました。

本ハンドブックの活用の仕方 ～授業設計力の向上を目指して～



1 「要領改訂の要点」では
学習指導要領改訂について理解しましょう。

2 「『単元計画の作成』の参考様式」を使って
3 「Q & A」でフォーマット上の用語を確認し
4 「単元計画の例」を参考に単元計画を
作成してみましょう。



単元計画を作成する際には、5 「評価について」、
6 「解説の読み方（考え方）」も必要に応じて
参考にしましょう。

7 「12 年間の学びの系統性」では
小学校から高等学校までの学びの系統性を
8 「年間指導計画の例」では
年間指導計画の立て方を学ぶことができます。



9 「参考資料」では3つのチェックリストで
ご自身の実践的指導力をチェックできます。

※活用の際は、必要に応じてプリントアウトしてお使いください。
また、総合教育センターウェブサイト内、体育指導センターウェブ
ページより、単元計画のフォーマットをダウンロードできます。

先生方の授業づくりを応援します！

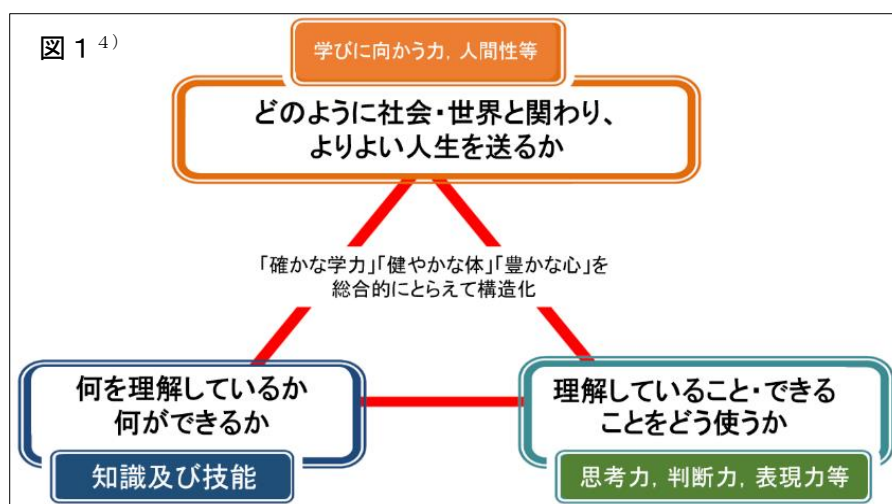


1 要領改訂の要点

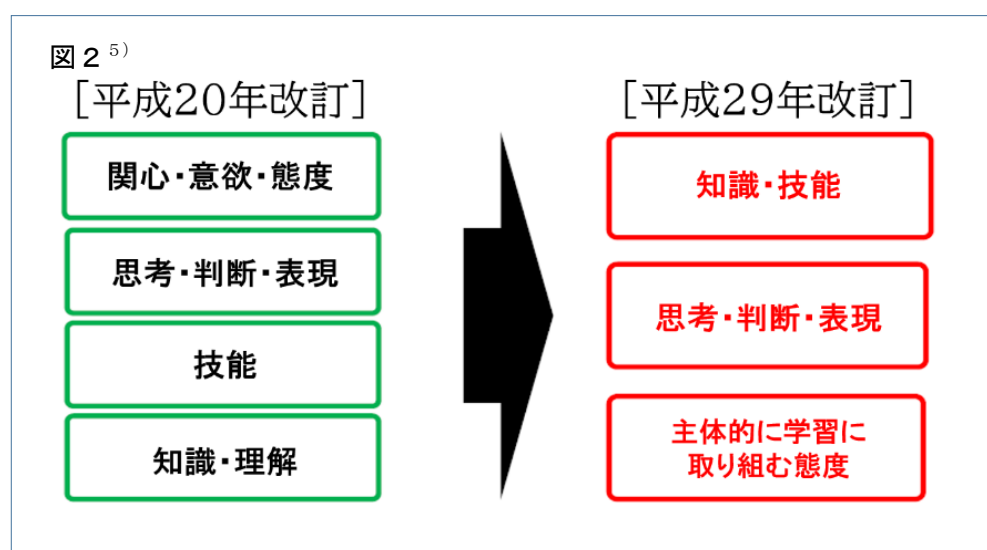
(1) 育成すべき資質・能力の三つの柱³⁾

これまでの「生きる力」をより具体化し、教育課程全体を通して育成を目指す資質・能力が以下の三つに整理されました。(図1 参照)

生きて働く「知識及び技能」の習得	何を理解しているか、何ができるか
未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成	理解していること・できることをどう使うか
学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養	どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか



さらに、観点別学習状況の評価の観点については、教育目標や内容の再整理を踏まえ、小・中・高等学校の各教科を通じて、4観点から3観点到整理されました。(図2 参照)



(2) 保健体育科改訂の要点

要領の改訂を受け、保健体育でも具体的な修正が加えられました。**要領**に記載されている保健体育科の目標を基に、保健体育とは何を学ぶ教科なのかを整理しましょう。

保健体育科の目標¹⁾

体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 各種の運動の特性に応じた技能等及び個人生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。
- (2) 運動や健康についての自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- (3) 生涯にわたって運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。

(3) 保健体育科における見方・考え方

中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説「総則編」では、「各教科等の特質に応じた物事を捉える視点や考え方（以下『**見方・考え方**』という。）が鍛えられていくことに留意し、生徒が各教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見出して解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう過程を重視した学習の充実を図ること」⁶⁾とされています。

さらに、**解説**には「保健体育における見方・考え方」について次のような記載があります。

体育（分野）の見方・考え方²⁾

生涯にわたる豊かなスポーツライフを実現する観点を踏まえ、「運動やスポーツを、その価値や特性に着目して、楽しさや喜びとともに体力の向上に果たす役割の視点から捉え、自己の特性等に応じた『**する・みる・支える・知る**』の多様な関わり方と関連付けること」

保健（分野）の見方・考え方²⁾

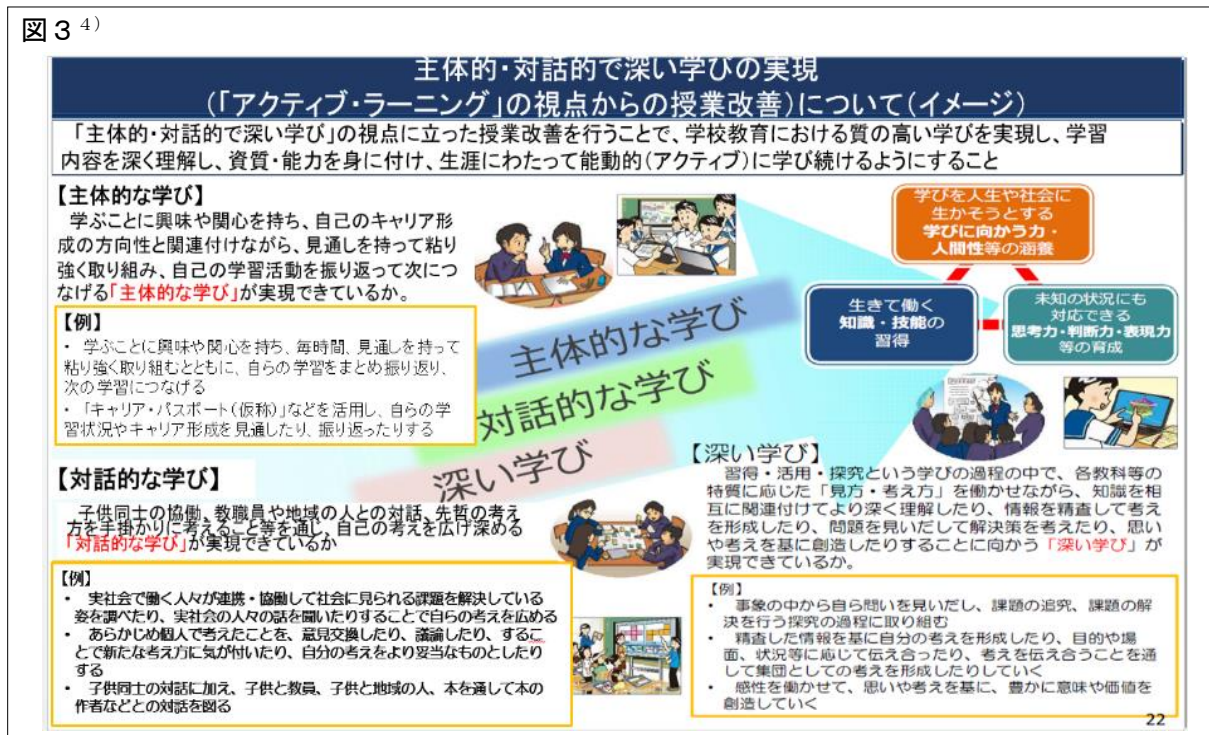
疾病や傷害を防止するとともに、生活の質や生きがいを重視した健康に関する観点を踏まえ、「個人及び社会生活における課題や情報を、健康や安全に関する原則や概念に着目して捉え、疾病等のリスクの軽減や生活の質の向上、健康を支える環境づくりと関連付けること」

(4) 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて

子どもたちが、学習内容を人生や社会の在り方と結び付けて深く理解し、これからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けたりすることができ

るようにするため、子どもたちが「どのように学ぶか」という学びの質を重視した改善を図っていくことが求められています。（図3参照）

図3⁴⁾



中央教育審議会答申には「これら三つの学びの過程をそれぞれ独立して取り上げるのではなく、相互に関連を図り、体育科、保健体育科で求められる学びを一層充実させることが重要である。また、これら三つの学びの過程は、順序性や階層性を示すものでないことに留意することが大切である。」³⁾と示されています。

(5) 保健体育科におけるカリキュラム・マネジメント

中央教育審議会答申には、各学校が設定する学校教育目標を実現するために、学習指導要領等に基づき教育課程を編成し、それを実施・評価し改善していく「カリキュラム・マネジメント」の重要性が示され、**解説**には保健体育科における「カリキュラム・マネジメント」の考え方が次のように示されています。

・ 3年間の見通しをもった年間指導計画の作成²⁾

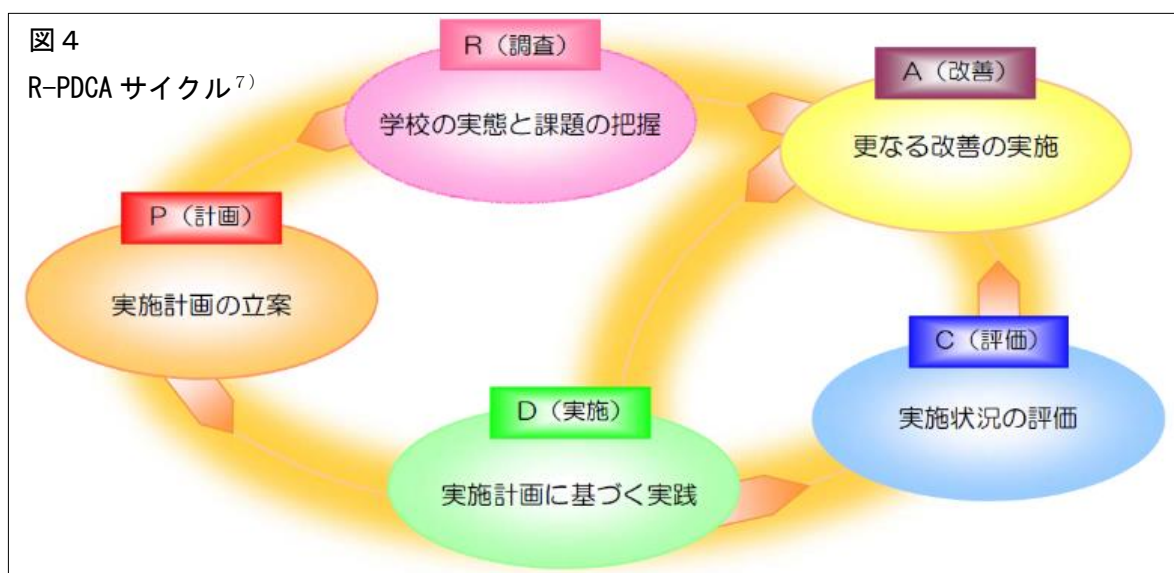
「指導計画の作成と内容の取扱い」を踏まえた、3年間の見通しをもった年間指導計画の作成に当たり、体育分野及び保健分野の指導内容の関連を踏まえること、体育・健康に関する指導につながる健康安全、体育的行事等との関連について見通しをもつなど、保健体育科を中心とした「カリキュラム・マネジメント」の視点から計画を立てることが大切です。

・ 生徒の現状に基づいた計画の作成・実施・評価・改善²⁾

体育分野においては、中学校第1学年及び第2学年においては全ての領域を学ぶこととなるため、2年間の見通しをもって、効率的で効果的な指導と評価の計画を作成することが必要です。第3学年においては、生涯にわたる豊かなスポーツライフの基礎を培う観点から、複数教員配置校においては、生徒が選択して学習ができるよう配慮することや、単数教員配

置校においては、生徒の希望ができる限り可能となる教育課程編成の工夫が求められます。保健分野においては、生涯にわたって心身の健康を保持増進する資質・能力を育成する観点から、授業時数は、3学年間を通じて適切に配当するとともに、体育分野との関連はもちろん、健康に関する指導に関わる教科等や個別指導との連携を図るなどの教育課程編成の工夫が求められます。その際、生徒の実情、教員数、施設の要件等を踏まえた無理のない計画に基づく実施とその評価及び計画の改善を一体のものとして推進することが、教科における「カリキュラム・マネジメント」として大切です。

神奈川県では、教育課程の編成、実施、評価、改善の一連の流れである PDCA サイクルに、学校の実態と課題の把握を意味する“Research”を加えた「R-PDCA サイクル」の確立を推進しています。⁷⁾ (図4)



< 授業改善についてのR-PDCAサイクルの例 >⁷⁾

Research	(調査)	「生徒学力調査」、「観点別学習状況の評価」、「生徒による授業評価」などを活用し、学校の実態と課題を把握します。
Plan	(計画)	課題解決に向けて、具体的にどのような授業改善を行うか検討し、実施計画を立てます。
Do	(実践)	実施計画に基づいた授業を実践します。
Check	(評価)	「観点別学習状況の評価」、「生徒による授業評価」などを活用して、授業改善の評価を行います。
Action	(改善)	評価の結果を分析して整理し、次の授業実践(D)につなげます。また、次年度の授業改善に向けて、更なる課題の把握(R)へと発展させます。

・地域の人的・物的資源等の活用²⁾

生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の推進に向けて、必要に応じて、地域の人的・物的資源等の活用を検討することも大切です。特に、障害のある生徒等への支援や実生活へのつながりを充実する観点から、活用可能な地域等の人的・物的資源等との連携を図り、指導の充実につなげることが学校と社会をつなぐ「カリキュラム・マネジメント」として大切です。

2 単元計画の作成

「単元計画」の参考様式

単元計画を作成する際の参考様式です。必ず全ての項目を示す必要はありません。逆に、参考様式に記載のない項目（単元観、生徒観、指導観（P. 11 参照）等）を記載する等、各校の実態に応じて、適宜、項目立ても検討し作成してください。用語の説明や書き方の詳細についてはQ&Aを参考にしてください。

保健体育科 学習指導と評価の計画

指導者 ○○ ○○

【単元計画】

1 単元

Q 1 「単元」、「内容のまとめり」とは P. 11 へ

2 内容のまとめり

3 対象 年 組 名（男子 名・女子 名）

4 期間 令和 年 月 日（ ）～ 月 日（ ）

5 場所

Q 2 「単元の目標」の設定の仕方 P. 14 へ

6 単元の目標 ※本単元の目標を記載する。

(1) 知識及び技能

(2) 思考力、判断力、表現力等

(3) 学びに向かう力、人間性等

Q 3 「内容のまとめりごとの評価規準」の設定の仕方 P. 15 へ

7 内容のまとめりごとの評価規準

※「内容のまとめり」として生徒に身に付けさせたい力(内容)を示します。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○知識		
○技能		

Q 4 「全ての『単元の評価規準』」の設定の仕方 P. 16 へ

8 全ての「単元の評価規準」 ※保健分野においては設定の必要はありません。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○知識	○技能	

Q 5 「単元の評価規準」の設定の仕方 P. 17 へ

9 単元の評価規準

※「全ての評価規準」から、本単元の目標に照らして取り扱うものを精選します。

知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○知識	○技能		

- ・保健分野においては「知識」と「技能」を区別せずに設定します。
- ・保健分野において、「技能」が示されていない内容のまとまり（健康な生活と疾病の予防、健康と環境）についても評価の観点名は「知識・技能」となります。

Q 6 「指導と評価の計画」の考え方 P. 19 へ

10 指導と評価の計画

※単元の目標、単元の評価規準（学習内容）を踏まえて、生徒が学習の見通しを持ちやすく、指導・評価も効果的に行えるような計画を作成します。

	時間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
(学習過程) 学習の流れ	0	<p>単元の学習の流れ（学習過程）を考える際には、「単元構造図」を作成することが、生徒の学習活動や教師の学習指導の見通しをもてる計画とすることができるので大変有効です。</p> <p>Q 7 「単元構造図」とは P. 22 へ</p>									
	10										
	20										
	30										
	40										
	50										
指導・評価	観点	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	知・技										
	思・判・表										
	主体的態度										

○：指導日 ●：評価日 ◎：指導日＋評価日

- ・体育分野の「知識・技能」においては、「知識」と「技能」を分けて設定し、破線で区切っています。
- ・保健分野の「知識・技能」においては、「知識」と「技能」を分けずに「知識・技能」として設定しています。
- ・体育分野の「主体的に学習に取り組む態度」においては、指導内容が具体的に示されている（例示）ため、各時間ごとに適切に評価を行い、積み重ねていく考えから、各時間ごとの区切りを**実線**で示します。（P. 25 参照）
- ・保健分野の「主体的に学習に取り組む態度」においては、体育分野と異なり、指導内容が具体的に示されていないため、単元全体を通して適切に評価を行う考えから、各時間を実線で区切らず**破線**で示します。（P. 29 参照）

評価方法			
知・技（知）		知・技（技）	
思・判・表		主体的態度	

- ・それぞれの評価に対する評価方法を示します。

11 本時案 (/ 時間)

(1) 本時の目標

Q 8 「本時案」とは P. 22 へ

< 資質・能力の名称＋番号 >

・本時の指導内容（～すること）ができるようにする。(評価： / 時間)

「資質・能力」「評価の観点」 P. 4 へ

(2) 本時の評価

指導日と評価日が異なる場合は () で示します。

< 評価の観点の名称＋番号 >

・本時の評価規準【 評価方法 】(指導： / 時間)

(3) 本時の展開

	生徒の学習内容・活動	教師の指導・手立てと評価
はじめ分	1 2 学習内容・活動を時系列で記載します。(生徒を主語とします) 3	○ ○ 指導・手立てや評価に係る内容、留意事項等を時系列で記載します。(教師を主語とします) ○
なか分	【本時の学習内容】 本時の学習内容をより具体化して語尾を「～こと」として記載します。 4	○
	【発問】 本時の授業における主発問を記載します。複数設定しても構いません。	
	予想される生徒の反応 主発問や学習内容・活動に対する「予想される生徒の反応」を記載します。	指導
	5 ○○○○	学習内容・活動と本時の指導内容が結びつくように記載します。
まとめ分	6 7 ○○○○	○ 評価
	学習内容・活動と本時の評価が結びつくように記載します。	
	8	○

3 単元計画のQ & A

Q 1－1 「内容のまとめり」とは

A 保健体育科における「内容のまとめり」（表 1）とは、**要領**の「2 内容」の項目等をそのまとめりごとに細分化・整理したものです。「内容のまとめり」を意識することで、単元（種目等）を含む領域で取り扱う学習内容を確認することができます。

表 1 中学校保健体育科における「内容のまとめり」⁵⁾

体育分野		保健分野
第 1 学年及び第 2 学年	第 3 学年	第 1 学年～第 3 学年
A 体づくり運動 B 器械運動 C 陸上競技 D 水泳 E 球技 F 武道 G ダンス H 体育理論 (1) 運動やスポーツの多様性 (2) 運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方	A 体づくり運動 B 器械運動 C 陸上競技 D 水泳 E 球技 F 武道 G ダンス H 体育理論 (1) 文化としてのスポーツの意義	(1) 健康な生活と疾病の予防 (2) 心身の機能の発達と心の健康 (3) 傷害の防止 (4) 健康と環境

「単元観」「生徒観」「指導観」について

8 ページに示した単元計画の参考様式の項目には入っていませんが、授業づくりをするうえで、この 3 つの項目を考えることは大切なことです。

- ・単元観：単元の指導内容や教材の特性（運動領域では、当該の運動やスポーツの特性）
一般的な価値や特性に加え、生徒から見た特性も考慮します。
- ・生徒観：生徒の普段の様子や当該の領域等における状況
単元の指導内容や教材に関する理解度、既習経験等も考慮します。
- ・指導観：指導内容や教材の特性、生徒の実態を踏まえた具体的な指導の方法・方向性
目指す生徒像に迫るための工夫点も考慮します。

単元観や生徒観を考えることは、学習内容・教材がどのようなものなのか（例：この運動の特性は何か）、対象がどのような生徒なのかを理解していくことにつながります。

そして、指導観を考えることは、単元観、生徒観を踏まえて、どのような授業（単元）をつくるのかと、イメージを膨らませ、最終的には、学習の道筋（プロセス）や目指す生徒の姿（ゴール）を明確にしていくことです。

Q1-2 「単元」とは

A 中央教育審議会答申 において「各教科等において、一定の目標や主題を中心として組織された学習内容の有機的な一（ひと）まとまりのこと」³⁾と示されています。**要領**では表2・3のように示されています。

表2 体育分野の領域の単元について⁸⁾

	運動に関する領域 (内容のまとまり A～G)	知識に関する領域 (内容のまとまり H)
内容の まとまり (領域)	E 球技 F 武道	H 体育理論
単元	ア ゴール型：サッカー（第1学年） イ 剣道（第2学年） 等	<ul style="list-style-type: none"> ・運動やスポーツの多様性（第1学年） ・運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方（第2学年） ・文化としてのスポーツの意義（第3学年）
小単元		<ul style="list-style-type: none"> ・第1学年 (ア) 運動やスポーツの必要性 等

※「H 体育理論」において、それぞれの単元で（ア）、（イ）、（ウ）で示されている内容を小単元として捉えることもできます。

表3 保健分野の領域の単元について（設定例）⁵⁾

内容のまとまり	単元名（例）	学年	時数
（1）健康な生活と疾病の予防	健康の成り立ちと疾病の発生要因 生活習慣と健康	1	4
	生活習慣病などの予防	2	4
	喫煙、飲酒、薬物乱用と健康	2	4
	感染症の予防	3	4
	健康を守る社会の取組	3	4
（2）心身の機能の発達と心の健康	心身の機能の発達	1	6
	心の健康	1	6
（3）傷害の防止	傷害の防止	2	8
（4）健康と環境	健康と環境	3	8

※保健分野では、「内容のまとまり」をそのまま「単元」として捉える場合と、「内容のまとまり」をいくつかの「単元」に分けて単元設定する場合が想定されます。⁵⁾

さらには、**解説**（保健分野）において、㉞、㉟等で示されている内容を小項目としてとらえることもできます（表4）。⁹⁾

表4 保健分野の単元のとらえ方

内容のまとめり【大項目】	単元【中項目】	【小項目】
(1) 健康な生活と疾病の予防	(ア) 健康の成り立ちと疾病の発生要因	
	(イ) 生活習慣と健康	㉞ 運動と健康
		㉟ 食生活と健康
		㊱ 休養及び睡眠と健康
		㊲ 調和のとれた生活
	(ウ) 生活習慣病などの予防	㉞ 生活習慣病の予防
		㉟ がんの予防
	(エ) 喫煙，飲酒，薬物乱用と健康	㉞ 喫煙と健康
		㉟ 飲酒と健康
		㊱ 薬物乱用と健康
	(オ) 感染症の予防	㉞ 感染症の予防
		㉟ エイズ及び性感染症の予防
	(カ) 個人の健康を守る社会の取組	

Q 2 「単元の目標」の設定の仕方

A 単元の目標は、体育分野の場合、**要領**の「2 内容」を踏まえて、文末を「～できるようにする」として記載します。その内容を目標として全て記述した上で、年間指導計画に設定した内容のまとまりの中から、本単元の目標を明示するため、他の単元で指導し評価する部分（Q 6 を参照）については、（ ）で示すこともできます。⁵⁾（表 5 は単元サッカーの例）

表 5 単元の目標の設定例（体育分野 ア ゴール型：サッカー（第 1 学年））⁵⁾

<p>(1) 知識及び技能</p> <p>勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、サッカーの特性（や成り立ち）、技術の名称や行い方、（その運動に関連して高まる体力）（など）を理解するとともに、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームを展開することができるようにする。</p> <p>ア ゴール型では、ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防をすることができるようにする。</p>
<p>(2) 思考力、判断力、表現力等</p> <p>攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。</p>
<p>(3) 学びに向かう力、人間性等</p> <p>（サッカーに積極的に取り組むとともに）、（フェアなプレイを守ろうとすること）、（作戦などについての話し合いに参加しようとする）、（一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとする）、仲間の学習を援助しようとする（など）や、健康・安全に気を配ることができるようにする。</p>

保健分野の場合、**解説**の記載内容を基に、「知識及び技能」「学びに向かう力、人間性等」は下線部を単元に合わせて記載します。「思考力、判断力、表現力等」は**解説**の内容から記載します。（表 6 は(2)心身の機能の発達と心の健康から（ウ）（エ）²⁾を取り上げた「心の健康」の例）

表 6 単元の目標の設定例（保健分野 第 1 学年(2)心身の機能の発達と心の健康）⁵⁾

<p>(1) 知識及び技能</p> <p><u>心の健康</u>について、理解することができるようにするとともに、<u>ストレスに対処する技能</u>を身に付けることができるようにする。</p>
<p>(2) 思考力、判断力、表現力等</p> <p>心の健康に関わる事象や情報から課題を発見し、疾病等のリスクを軽減したり、生活の質を高めたりすることなどに関連付けて、解決方法を考え、適切な方法を選択し、それらを伝え合うことができるようにする。</p>
<p>(3) 学びに向かう力、人間性等</p> <p><u>欲求やストレスへの対処などの心の健康</u>について、自他の健康の保持増進や回復についての学習に自主的に取り組もうとすることができるようにする。</p>

Q3 「内容のまとまりごとの評価規準」の設定の仕方⁵⁾

A 内容のまとまりごとに**要領**に示されている「2 内容」を記載し、それぞれの文末を「～している」、「～ができる」と変えることで「内容のまとまりごとの評価規準」として設定することができます(表7)。

保健分野の場合、「主体的に学習に取り組む態度」は**下線部**を単元に合わせて記載します。

「内容のまとまりごとの評価規準」を設定することで、「内容のまとまり」として生徒に身に付けさせたい力(内容)を明確にすることができます(図5)。

表7 内容のまとまりごとの評価規準設定例

体育分野 「E 球技(第1学年及び第2学年)」

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
内容のまとまりごとの評価規準例	<p>○知識</p> <p>・球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などについて理解<u>している</u>。</p> <p>○技能</p> <p>・ゴール型では、ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防を<u>することができる</u>。</p> <p>～以下略～</p>	<p>・攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に<u>伝えている</u>。</p>	<p>・球技に積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ろうとすること、作戦などについての話し合いに参加しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとする、仲間の学習を援助しようとするなどをしたり、健康・安全に気を配ったり<u>している</u>。</p>

保健分野 「健康と環境(第3学年)」

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
内容のまとまりごとの評価規準例	<p>・身体には、環境に対してある程度まで適応能力があること。身体の適応能力を超えた環境は、健康に影響を及ぼすことがあること。また、快適で能率のよい生活を送るための温度、湿度や明るさには一定の範囲があることを理解<u>している</u>。</p>	<p>・健康と環境に関する情報から課題を発見し、その解決に向けて思考し判断<u>している</u>とともに、それらを表現<u>している</u>。</p>	<p>・<u>健康と環境</u>についての学習に自主的に取り組もうとしている。</p>

※『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料 中学校 保健体育(令和2年3月)国立教育政策研究所」のP.103～120(巻末資料)に内容のまとまりごとの評価規準の例が掲載されています。

Q 4 「全ての『単元の評価規準』」の設定の仕方⁵⁾

A 第1学年及び第2学年、第3学年の「内容のまとまり」ごとに、**解説**に記載されたそれぞれの<例示>の文末を表8のように変えて「全ての『単元の評価規準』」として設定することができます。

表8 評価規準の文末の設定例

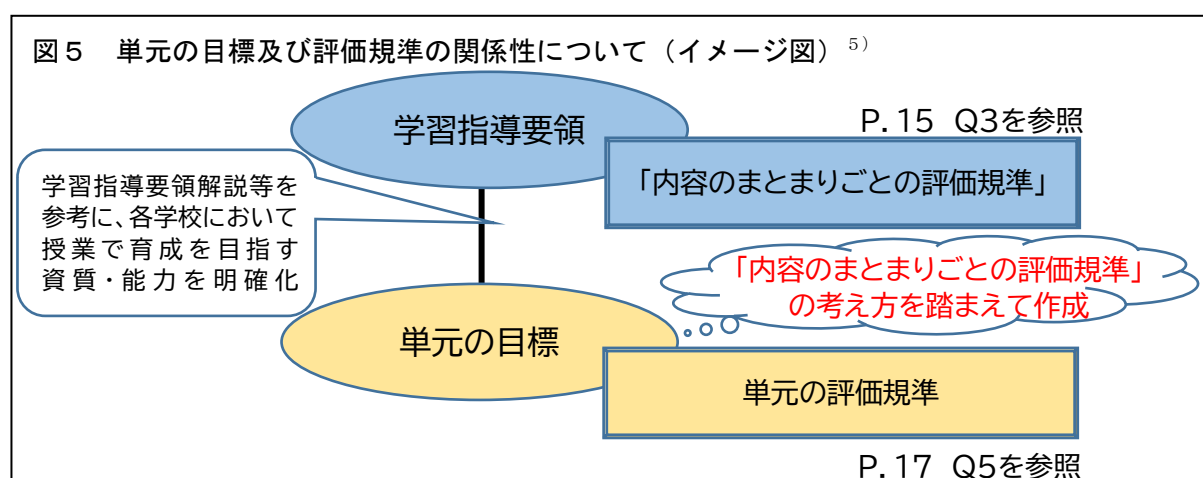
知識・技能	知識	～について言ったり、書き出したりしている。 ～について学習した具体的な例を挙げている。
	技能	～ができる。
思考・判断・表現		～している。
主体的に学習に取り組む態度		「健康・安全以外」 ～しようとしている。
		「健康・安全」 ～している。

※「学びに向かう力、人間性等」においては「ア 共通事項（愛好的態度）」、「イ 公正」、「ウ 協力・責任」、「エ 参画・共生」、「オ 健康・安全」の5項目に分けて表記されています。

「単元の評価規準」を設定する際（Q 5）については、当該単元において各学校で設定された目標及び指導内容に対する評価規準を作成することになるため、あらかじめ、「内容のまとまり」ごとに、例示を基にした、全ての「単元の評価規準」を作成しておくことが考えられます。

ただし、**解説**において、「例示（「体づくり運動」は、行い方の例、組合せ方の例及び例示）は、各領域で取り上げることが効果的な指導事項の具体例を重点化して示しているが、各領域で設定する時間数、学校や地域の実態及び生徒の特性等に応じて、内容のまとまりごとに更に重点化を図る」ことや「例示を取り上げる際には、単元のまとまりごとに更に重点化を図るなど、指導事項を効果的に振り分ける」ことが求められていることにも留意します。

・全ての単元の評価規準の設定例（ゴール型における全ての評価規準【第1学年及び第2学年】）はP.24を参照



Q 5 「単元の評価規準」の設定の仕方⁵⁾

A 体育分野は、「全ての『単元の評価規準』の中から、本単元において取り扱うものを単元の目標を踏まえて選択し、設定します。保健分野は、「内容のまとまりごとの評価規準」を踏まえ、**解説**の記載内容を基に設定します(図5)。これにより本単元の学習内容を明確にすることができます。

表9 体育分野 単元の評価規準設定例 「単元名：ア ゴール型：サッカー（第1学年）」

知識・技能		思考・判断・表現	主体的に～
○知識 ①球技には、集団対集団、個人対個人で攻防を展開し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わせる特性があることについて、言ったり書き出したりしている。 ② <u>サッカー</u> において用いられる技術には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。	○技能 ①ゴール方向に守備者がいない位置でシュートをすることができる。 ②得点しやすい空間にいる味方にパスを出すことができる。 ③ボールとゴールが同時に見える場所に立つことができる。	①提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。 ②仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた活動の仕方を見付けている。 ③仲間と話し合う場面で、提示された参加の仕方に当てはめ、チームへの関わり方を見付けている。	①練習の補助をしたり仲間に助言したりして、仲間の学習を援助しようとしている。 ②健康・安全に留意している。

下線部(この場合はサッカー)を単元名に置き換えて、評価規準を設定することができます。

表10 保健分野 単元の評価規準設定例 「単元名：傷害の防止（第2学年）」

(下線部分 (○○ ○○ ○○) が指導内容から評価規準に反映されています。)

1) 知識・技能 ※技能のない指導内容においても、観点名は「知識・技能」となります。

指導内容 (解説に記載されている内容)	評価規準 (例)
知識及び技能	知識・技能
(ア) 交通事故や自然災害などによる傷害の発生要因 <u>交通事故や自然災害などによる傷害は、人的要因、環境要因及びそれらの相互の関わりによって発生すること、人的要因としては、人間の心身の状態や行動の仕方について、環境要因としては、生活環境における施設・設備の状態や気象条件などについて理解できるようにする。</u> なお、学校の状況に応じて、運動による傷害の発生要因について適宜取り上げることに配慮するものとする。 他省略	・ <u>交通事故や自然災害などによる傷害は、人的要因、環境要因及びそれらの相互の関わりによって発生することについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</u> 他省略

2) 思考・判断・表現

指導内容（解説に例示として記載されている内容）	評価規準（例）
思考力、判断力、表現力等	思考・判断・表現
<p>・ <u>傷害の防止における事柄や情報などについて、保健に関わる原則や概念を基に整理したり、個人生活と関連付けたりして、自他の課題を発見すること。</u></p> <p>・ <u>交通事故、自然災害などによる傷害の防止について、習得した知識を自他の生活に適用したり、課題解決に役立てたりして、傷害を引き起こす様々な危険を予測し、回避する方法を選択すること。</u></p> <p>・ <u>傷害に応じた適切な応急手当について、習得した知識や技能を傷害の状態に合わせて活用して、傷害の悪化を防止する方法を見いだすこと。</u></p> <p style="text-align: center;">他省略</p>	<p>・ <u>傷害の防止について、それらに関わる事柄や情報などを整理したり、個人生活と関連付けたりして、自他の課題を発見している。</u></p> <p>・ <u>自然災害などによる傷害の防止について、習得した知識を自他の生活に適用したり、傷害の状態に合わせて悪化を防止する方法を見いだしたりして、傷害を引き起こす様々な危険を予測し、回避する方法を選択している。</u></p> <p style="text-align: center;">他省略</p>

3) 主体的に学習に取り組む態度

指導内容	評価規準（例）
学びに向かう力、人間性等	主体的に学習に取り組む態度
<p>※保健分野においては、要領に「学びに向かう力、人間性等」の指導内容は示されていない。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>保健分野の目標 (学びに向かう力、人間性等) (3) 生涯を通じて心身の健康の保持増進を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。</p> </div> <p>「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）別紙4 各教科等・各学年等の評価の観点等及びその趣旨」¹⁰⁾の内容を踏まえ、文末を「<u>～しようとしている。</u>」として、評価規準を作成する。</p>	<p>・ <u>傷害の防止について、課題の解決に向けての学習に自主的に取り組もうとしている。</u></p>

Q6 「指導と評価の計画」の考え方

A 指導場面や評価機会が関連付けられた「指導と評価の計画」を立てることは、学習指導や支援の見通しをもつためにとても重要なことです。ここでは、体育分野における「指導と評価の計画」のポイントを説明します。

ポイント1：2年間を見通して、指導事項をバランスよく配置する。

図6は第1学年及び第2学年の「球技」における2年間を見通した指導事項の配置の例です。図ではネット型、ベースボール型を省略していますが、第1学年で①ゴール型、②ネット型、第2学年で③ネット型、④ベースボール型、⑤ゴール型と2年間で「球技」を5回行う計画となっています。（「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校 保健体育 P.55 参照）

図6
第1学年及び第2学年
「球技」の指導事項

		①球技・ゴール型(第1学年) バスケットボール・サッカー選択 2クラス2展開(10)										⑤球技・ゴール型(第2学年) バスケットボール・サッカー選択 2クラス2展開(11)									
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
知識・技能 (ゴール型)	①球技の特性	●																			
	②成り立ち											●									
	③技術の名称や行い方		○	○		○							○	○	○		○				
	④関連して高まる体力																		●		
	①守備がいない位置でシュート		●									*									
	②マークされていない味方にパス												●								
	③得点しやすい空間にいる味方にパス				●							*									
思考・判断・表現 (ネット型)	④ボールをキープする													●							
	⑤ボールとゴールが同時に見える場所に立つ					●						*									
	⑥ゴール前の空いている場所に動く														●						
	⑦相手をマークする															●					
	ネット型、ベースボール型 省略																				
	①仲間の課題や出来映えを伝える							●													
	②課題に応じた練習方法を選ぶ															●					
主体的に学習に取り組む態度 (ベースボール型)	③学習した安全上の留意点を仲間に伝える																	●			
	④よい取り組みを見付け、理由を添えて他者に伝える																				
	⑤分担した役割に応じた活動の仕方を見付ける						●														
	⑥チームへの関わりを見付ける									●										●	
	⑦仲間とともに楽しむための練習やゲームを行う方法を見付け仲間に伝える																				
	①積極的に取り組もうとする																			●	
	②フェアなプレイを守ろうとする																		●		
主体的に学習に取り組む態度 (ネット型)	③話合いに参加しようとする																				
	④一人ひとりの違いに応じた課題や挑戦および修正などを認めようとする																		●		
	⑤仲間の学習を援助しようとする			●																	
	⑥健康・安全に留意する	●										*									

●重点指導機会 ○複数回での指導機会 *評価対象とせず指導する機会

解説の例示等で示された2年間の指導事項を、実施時期や配当時間等を踏まえて配置します。

「知識及び技能」の指導事項については、型ごとに指導する必要があるため、この例の場合、ゴール型は第1学年の①と第2学年の⑤の2回の指導機会を取り上げることとなります。また、「思考力、判断力、表現力等」及び「学びに向かう力、人間性等」で示される具体的な指導事項は、「内容のまとまり（第1学年及び第2学年「E 球技」）」に対して示されていることから、①～⑤の球技全体を通して、意図的、計画的に配置します。⁵⁾

ポイント2：指導事項に合わせて、「単元の評価規準」を設定する。（Q5を参照）

バランスよく配置した指導事項から、本単元で扱う指導事項の評価規準を設定します。

例えば、「知識」において「球技の特性」「技術の名称や行い方」が指導内容の場合、表11の「知識」の①②のような評価規準が考えられます。「技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準も下表のように本単元で扱う指導事項（表11の**太字**部分が該当）についての内容が考えられます。

表11 図6を基にした単元の評価規準

知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○知識 ①球技には、集団対集団、個人対個人で攻防を展開し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性があることについて、言ったり書き出したりしている。（ 球技の特性 ） ②サッカーにおいて用いられる技術には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。（ 技術の名称や行い方 ）	○技能 ①ゴール方向に 守備者がいない位置でシュート をすることができる。 ②得点しやすい空間にいる味方にパスを出すことができる。 ③ ボールとゴールが同時に見える場所に立つ ことができる。	①提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、 仲間の課題や出来映えを伝えている 。 ②仲間と協力する場面で、 分担した役割に応じた活動の仕方を見付けている 。 ③仲間と話し合う場面で、提示された参加の仕方に当てはめ、 チームへの関わり方を見付けている 。	①練習の補助をしたり仲間に助言したりして、 仲間の学習を援助しようとしている 。 ② 健康・安全に留意している 。

ポイント3：指導したことを適切なタイミングで評価する。

表12 指導と評価の計画

指導・評価	時間		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	観点	知	①○	(②○)	(②○)		②○					総括的評価
		技		①○	①●	②○	③○	②●	③●			
		思・判・表						②○	①○	②●	③○	
	主体的態度		②○	②●	①○	①●						

○：指導日 ●：評価日 ◎：指導日＋評価日

それぞれの資質・能力を育む過程には以下のような特性があるため、表12のように指導と評価のタイミングを設定することが考えられます。

- ・形成されるのに時間がかかることが考えられる⇒「技能」「主体的に学習に取り組む態度」
指導してすぐに身に付かない内容の場合、一定期間を置いて評価することがあります。
- ・形成されるのに時間がかからない場合が考えられる⇒「知識」「思考・判断・表現」
指導したことをその日のうちに評価することが望ましい。

ポイント４：指導と評価の一体化

学習評価は、指導の改善を図るための情報としてとらえていくことが重要です。指導と評価は表裏の関係にあり、これらが同時に行われることを「指導と評価の一体化」と呼んでいます。学習のプロセスにおいて適切に評価し、必要に応じて指導を行うことが大切であり、指導と評価を一体的に、しかも不断に行いつつ、単元の終末においてはすべての子どもたちに、評価規準が実現するように努めることが大切です。¹¹⁾

図７の例では１時間目を診断的な評価機会とし、生徒の学びの状況を確認します。２～９時間目に指導事項をバランスよく配置するとともに、形成的な評価機会を設定しています。さらに１０時間目には総括的な評価を位置付けています。例えば、２・４・５時間目に指導した技能の内容を３・６・７時間目にそれぞれの評価規準に基づき評価します。その際に「努力を要する」状況（Ｃ）と判断される生徒がいた場合には、個別の指導を行うなどの手立てを行い、その生徒の状況を１０時間目に最終確認します。（文中の診断的・形成的・総括的な評価機会の説明は表１３）

図７ 指導と評価のイメージ

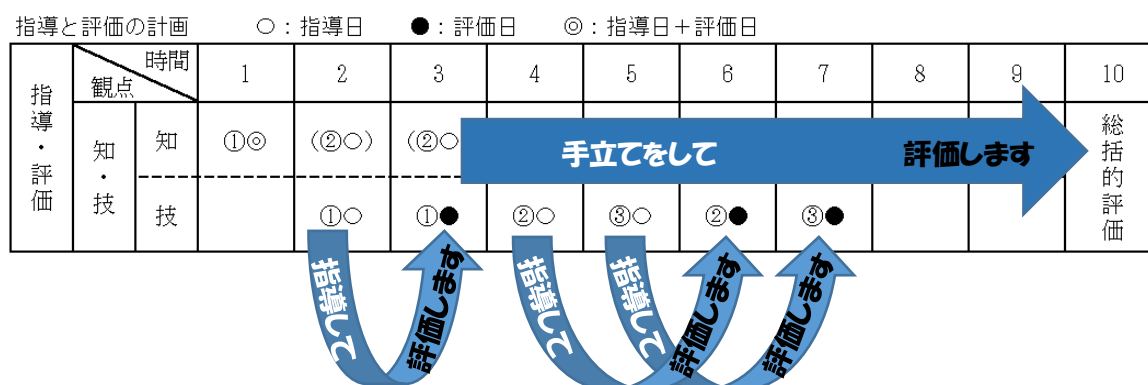


表１３ 学習過程における評価¹²⁾

診断的評価	学習前の状況を「診断的に」評価します。既習の学習内容やこれから行う運動に対する好き嫌いを測るアンケート、単元最初の「試しのゲーム」などがあります。その様相を基に単元を最適化していきます。
形成的評価	学習の過程を「形成的に」評価します。子どもたちを見取り、フィードバックすることです。（つまづきを把握し、手立てを講じる）
総括的評価	授業の成果を単元の区切りとして総括的に評価します。ここでは、学習の過程において生徒が学んだことを総合的に意味付けすることが大切です。

これらのポイントを踏まえながら、生徒の実態に応じた「指導と評価の計画」を立てていくことが大切です。

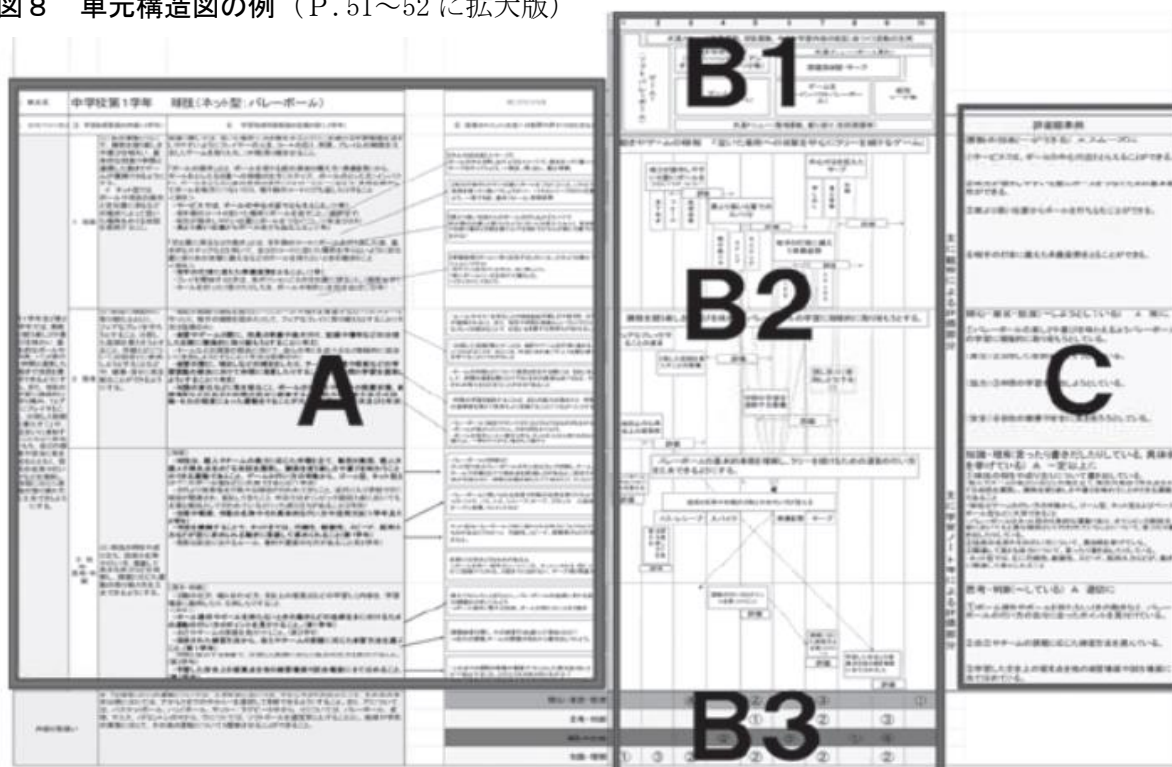
ここでは第１学年及び第２学年における２年間を見通した指導と評価の計画を示しましたが、第３学年の指導内容は、高等学校入学年次との２年間のまとまりとなりますので、第１～２学年の指導内容や学校、生徒の状況を鑑みて指導と評価の計画を立てるようにします。

Q7 「単元構造図」とは¹³⁾

A 単元構造図(図8)は、指導内容の確認、学習過程の具体化、評価規準の設定を一連の流れとしてとらえる俯瞰図です。大きく分けて、単元構造図は、A～Cゾーンで構成されています。(Aゾーン…学習指導要領の指導内容の確認、Bゾーン…学習過程・指導内容の具体化、指導と評価のタイミングの検討、Cゾーン…評価規準の設定)

学習指導要領及び同解説を基にした授業づくりを進めていくうえで、学習指導要領・解説の内容と単元計画、教材・教具の工夫、評価計画との整合性を確認するためのツールとしての役割もあります。

図8 単元構造図の例 (P. 51～52 に拡大版)



※本ハンドブックの単元計画の参考様式中の「指導と評価の計画」(P. 9)は、ここに示した単元構造図の学習過程、指導内容、指導と評価のタイミングを一表にして示したものです。

Q8 「本時案」とは⁸⁾

A 単元計画を基に、その中の1単位時間をより詳しく示したものです。1単位時間の授業の流れ、指導内容と評価、手立てなどを具体化します。

時案の主たる項目

○本時のねらい(目標)

○本時の評価

○展開(はじめ、なか、まとめ)

- ・学習内容(指導内容) ・学習活動 ・発問 ・教師の指導
- ・予想される生徒の反応 ・手立てと評価

4 単元計画の例

(1) 体育分野

「ゴール型・サッカー」を参考例として「単元計画」を示しています。

保健体育科 学習指導と評価の計画

指導者 藤沢 善行

【単元計画】

1 単元 ゴール型：サッカー

2 内容のまとめ E 球技

3 対象 1年1組 36名（男子18名・女子18名）

4 期間 令和3年5月10日（月）～6月3日（木）

5 場所 グラウンド

6 単元の目標

(1) 知識及び技能

勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、サッカーの特性や（成り立ち）、技術の名称や行い方、（サッカーに関連して高まる体力）（など）を理解するとともに、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームを展開することができるようにする。
サッカーにおいて、ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防をすることができるようにする。

(2) 思考力、判断力、表現力等

攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。

(3) 学びに向かう力、人間性等

（サッカーに積極的に取り組むとともに）、（フェアなプレイを守ろうとすること）、（作戦などについての話し合いに参加しようとする）、（一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとする）、仲間の学習を援助しようとする（など）や、健康・安全に気を配ることができるようにする。

7 内容のまとめとごとの評価規準【※場合によっては省略可能】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>○知識</p> <p>・球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などについて理解している。</p> <p>○技能</p> <p>・ゴール型では、ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防をすることができる。</p> <p>※ネット型、ベースボール型は省略</p>	<p>・攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。</p>	<p>・球技に積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ろうとすること、作戦などについての話し合いに参加しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとする、仲間の学習を援助しようとするなどをしたり、健康・安全に気を配ったりしている。</p>

8 全ての単元の評価規準（ゴール型における全ての評価規準）【※場合によっては省略可能】

知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>○知識</p> <p>①球技には、集団対集団、個人対個人で攻防を展開し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性があることについて、言ったり書き出したりしている。</p> <p>②学校で行う球技は近代になって開発され、今日では、オリンピック・パラリンピック競技大会においても主要な競技として行われていることについて、言ったり書き出したりしている。</p> <p>③球技の各型の各種目において用いられる技術には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。</p> <p>④対戦相手との競争において、技能の程度に応じた作戦や戦術を選ぶことが有効であることについて、学習した具体例を挙げている。</p> <p>⑤球技は、それぞれの型や運動種目によって主として高まる体力要素が異なることについて、学習した具体例を挙げている。</p>	<p>○技能</p> <p>①ゴール方向に守備者がいない位置でシュートをすることができる。</p> <p>②マークされていない味方にパスを出すことができる。</p> <p>③得点しやすい空間にいる味方にパスを出すことができる。</p> <p>④パスやドリブルなどでボールをキープすることができる。</p> <p>⑤ボールとゴールが同時に見える場所に立つことができる。</p> <p>⑥パスを受けるために、ゴール前の空いている場所に動くことができる。</p> <p>⑦ボールを持っている相手をマークすることができる。</p>	<p>①提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。</p> <p>②提供された練習方法から、自己やチームの課題に応じた練習方法を選んでいる。</p> <p>③学習した安全上の留意点を、他の学習場面に当てはめ、仲間に伝えている。</p> <p>④練習やゲームの場面で、最善を尽くす、フェアなプレイなどのよい取組を見付け、理由を添えて他者に伝えている。</p> <p>⑤仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた活動の仕方を見付けている。</p> <p>⑥仲間と話し合う場面で、提示された参加の仕方に当てはめ、チームへの関わり方を見付けている。</p> <p>⑦体力や技能の程度、性別等の違いを踏まえて、仲間とともに楽しむための練習やゲームを行う方法を見付け、仲間に伝えている。</p>	<p>①球技の学習に積極的に取り組もうとしている。</p> <p>②マナーを守ったり相手の健闘を認めたりして、フェアなプレイを守ろうとしている。</p> <p>③作戦などについての話合いに参加しようとしている。</p> <p>④一人一人の違いに応じた課題や挑戦及び修正などを認めようとしている。</p> <p>⑤練習の補助をしたり仲間に助言したりして、仲間の学習を援助しようとしている。</p> <p>⑥健康・安全に留意している。</p>

9 単元の評価規準

知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○知識 ①球技には、集団対集団、個人対個人で攻防を展開し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性があることについて、言ったり書き出したりしている。 ②サッカーにおいて用いられる技術には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。	○技能 ①ゴール方向に守備者がいない位置でシュートをすることができる。 ②得点しやすい空間にいる味方にパスを出すことができる。 ③ボールとゴールが同時に見える場所に立つことができる。	①仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた活動の仕方を見付けている。 ②仲間と話し合う場面で、提示された参加の仕方に当てはめ、チームへの関わり方を見付けている。	①練習の補助をしたり仲間に助言したりして、仲間の学習を援助しようとしている。 ②健康・安全に留意している。

10 指導と評価の計画（○は本時）

	時間		1	2	3	4	⑤	6	7	8	9	10
学習の流れ (学習過程)	0		健康観察・準備運動・前時の振り返り・本時の目標の確認									
	10	オリエンテーション	ボール操作 シュート パス トラップ	ボール操作ドリル						最終リーグ戦		
	20			タスクゲーム 空間に走り込む動き	課題の確認と解決の練習 ペアチームで相互観察・助言 ICT活用で課題認識							
	30	ボール慣れ	ミニゲーム① ゲーム記録の活用	ミニゲーム② シュート場面の創出	簡易ゲーム 人数・コート・ルール等の簡易化			前時ゲームの修正 最終リーグ戦				
	40											
	50	健康観察・整理運動・本時の振り返り・次時の目標										
指導・評価	観点		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	知・技	知	①◎	(②○)	(②○)		②◎					総括的評価
		技		①○	①●	②○	③○	②●	③●			
	思・判・表							②○	①◎	②●	③◎	
	主体的態度		②○	②●	①○	①●						

○：指導日 ●：評価日 ◎：指導日＋評価日

丸数字は「9 単元の評価規準」に示している内容の番号

評価方法			
知・技 (知)	観察、学習カード、ペーパーテスト (単元・定期)	知・技 (技)	観察
思・判・表	観察、学習カード、ペーパーテスト (単元・定期)	主体的態度	観察、学習カード

11 本時案（5/10 時間）

（1）本時の目標

<知識及び技能（知識）②>

- ・サッカーにおいて用いられる技術には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて、理解することができるようにする。（評価：本時）

<知識及び技能（技能）③>

- ・ボールとゴールが同時に見える場所に立つことができるようにする。（評価：7/10 時間）

（2）本時の評価

<知識・技能（知識）②>【観察、学習カード】（指導：2・3・5/10 時間）

- ・サッカーにおいて用いられる ～中略～ ポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。

（3）本時の展開

	生徒の学習内容・活動	教師の指導・手立てと評価
はじめ	1 集合・整列・挨拶 2 準備運動 3 本時の説明	○出席確認を行い、生徒の健康状態を把握する。 ○前時の振り返りを行い、本時のねらいを説明する。
10分	【学習内容】 ボールを持っていない時にボールとゴールが同時に見える場所に動き、パスをもらうこと そのために必要な技術の名称、ポイントなどを理解すること	
なか	4 ボール操作ドリル ・コーンドリブル ・2人組でのボールタッチ ・2人組での対人パス 5 タスクゲーム 「2VS1 パスゲーム」 ・ボールとゴールが同時に見える場所で仲間からパスを受ける。 6 タスクゲーム 「パス&シュートゲーム」 ※守備者はコーンで代用可	○コーンの近くをドリブルできるよう指導する。 ○相手の胸元への返球が難しい場合は、球出しを規則化・簡易化するよう指示する。 ○パスを出す・受ける意思表示をするよう指導する。 ○パスをする時、味方の状況を見てからパスをするよう指導する。 ○パスを受ける時、ボールとゴールが同時に見える場所で受けるよう指導する。その際、ボールを持っていない時の動きが大切であることを伝える。 指導 知識及び技能（技能）③ ○シュートのため、ボールとゴールが同時に見える場所に動いてパスをもらう場面を想定して指導する。 例) ・スルーパス 守備者の背後のスペースへ攻め込む。 ・センタリング サイドからゴール前へ攻め込む。
30分	【発問】 味方からパスをもらいシュートを打つためには、どのように動いたらよいだろう？	
	予想される生徒の反応 ・守備者の背後から空いたスペースへ走り込む。 ・味方同士でパスをうける（出す）意思表示をしよう。	指導 知識及び技能（知識）② ○発問後に、自チームの動きの変容を確認できるよう指導する。 ○動きに必要な技術のポイントについて説明する。
	7 ミニゲーム	○タスクゲームで学んだ動きをいかせるよう指導する。
まとめ	8 整理運動、健康観察 9 本時の振り返り、学習カード記述	○生徒に本時の学習の振り返り、自らの学習成果や課題を確認するよう促す。 ○本時の学習のポイントを振り返り、説明する。
10分	10 次時の確認、挨拶	評価 知識・技能（知識）②【観察、学習カード】 ○次時の授業のねらい等を説明する。

丸数字は「10 指導と評価の計画」に示している本時の指導内容

丸数字は「10 指導と評価の計画」に示している本時の評価内容

(2) 保健分野

単元「心の健康」を参考例として「単元計画」を示しています。

保健体育科 学習指導と評価の計画

指導者 藤沢 善行

【単元計画】

- 1 単元 心の健康
- 2 内容のまとめり 心身の機能の発達と心の健康
- 3 対象 1年1組 36名
- 4 期間 令和3年11月1日（月）～11月19日（金）
- 5 場所 教室

6 単元の目標

(1) 知識及び技能

心の健康について、理解することができるようにするとともに、ストレスに対処する技能を身に付けることができるようにする。

(2) 思考力、判断力、表現力等

心の健康に関わる事象や情報から課題を発見し、疾病等のリスクを軽減したり、生活の質を高めたりすることなどと関連付けて、解決方法を考え、適切な方法を選択し、それらを伝え合うことができるようにする。

(3) 学びに向かう力、人間性等

欲求やストレスへの対処などの心の健康について、自他の健康の保持増進や回復についての学習に自主的に取り組もうとすることができるようにする。

7 内容のまとめりごとの評価規準（※場合によっては省略可能）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・身体には、多くの器官が発育し、それに伴い、様々な機能が発達する時期があること。また、発育・発達の時期やその程度には、個人差があることを理解している。 ・思春期には、内分泌の働きによって生殖に関わる機能が成熟すること。また、成熟に伴う変化に対応した適切な行動が必要となることを理解している。 ・知的機能、情意機能、社会性などの精神機能は、生活経験などの影響を受けて発達すること。また、思春期においては、自己の認識が深まり、自己形成がなされることを理解している。 ・精神と身体は、相互に影響を与え、関わっていること。欲求やストレスは、心身に影響を与えることがあること。また、心の健康を保つには、欲求やストレスに適切に対処する必要があることを理解しているとともに、それらに対処する技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・心身の機能の発達と心の健康について、課題を発見し、その解決に向けて思考し判断しているとともに、それらを表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・心身の機能の発達と心の健康についての学習に自主的に取り組もうとしている。

8 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①心は、知的機能、情意機能、社会性等の精神機能の総体として捉えられ、それらは生活経験や学習などの影響を受けながら、脳の発達とともに発達することについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>②自己形成については、思春期になると、自己を客観的に見つめたり、他人の立場や考え方を理解できるようになったりするとともに、物の考え方や興味・関心を広げ、次第に自己を認識し自分なりの価値観をもてるようになるなど自己の形成がなされることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>③精神と身体には、密接な関係があり、互いに様々な影響を与え合っていること、また、心の状態が体にあらわれたり、体の状態が心にあらわれたりするの、神経などの働きによることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>④心の健康を保つには、適切な生活習慣を身に付けるとともに、欲求やストレスに適切に対処することが必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>⑤ストレスへの対処にはストレスの原因となる事柄に対処すること、コミュニケーションの方法を身に付けることなどいろいろな方法があり、それらの中からストレスの原因、自分や周囲の状況に応じた対処の仕方を選ぶことが大切であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>⑥リラクセーションの方法等がストレスによる心身の負担を軽くすることについて、理解したことを言ったり書いたりしているとともに、それらの対処の方法ができる。</p>	<p>①欲求やストレスへの対処における事柄や情報などについて、保健に関わる原則や概念を基に整理したり、個人生活と関連付けたりして、自他の課題を発見している。</p> <p>②欲求やストレスへの対処について、習得した知識や技能を自他の生活と比較したり、活用したりして、心身の健康を保持増進する方法やストレスへの適切な対処の方法を選択したりしている。</p> <p>③欲求やストレスへの対処について、課題の解決方法とそれを選択した理由などを、他者と話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて伝え合っている。</p>	<p>①欲求やストレスへの対処について、課題の解決に向けての学習に自主的に取り組もうとしている。</p>

9 指導と評価の計画（○は本時）

	時間	1	2	3	4	5	⑥
学習の流れ (学習過程)	0	前単元の振り返り	健康観察・前時の振り返り・本時の目標				
	10	知的機能 情意機能	年齢に伴う人との関わり方	精神と身体	欲求 欲求不満	ストレスの 原因	既習事項確認
	20		過去の自分との比較	内容調べ 心身相関	自己分析	ストレス対処法を考える	ストレス対処法【実習】
	30	社会性、自立 自己形成	発表				
	40						
	50	健康観察・本時の振り返り・次時の確認					
	指導・評価	観点	1	2	3	4	5
知・技		①②◎		③◎	④◎	⑤◎	⑥◎
思・判・表			①○	①●	②◎	③◎	
主体的態度		①○					①●

○：指導日 ●：評価日 ◎：指導日＋評価日

丸数字は「8 単元の評価規準」に示している内容の番号

評価方法

知・技	観察、学習カード、 ペーパーテスト（単元テスト・定期テスト）
思・判・表	観察、学習カード、 ペーパーテスト（単元テスト・定期テスト）
主体的態度	観察、学習カード

10 本時案（6/6時間）

（1）本時の目標

丸数字は「9 指導と評価の計画」に示している本時の指導内容

<知識及び技能⑥>

- ・リラクセーションの方法等がストレスによる心身の負担を軽くすることについて、理解したことを言ったり書いたりしていると同時に、それらの対処の方法ができるようにする。

（2）本時の評価

丸数字は「9 指導と評価の計画」に示している本時の評価内容

<知識・技能⑥>

- ・リラクセーションの方法等がストレスによる心身の負担を軽くすることについて、理解したことを言ったり書いたりしていると同時に、それらの対処の方法ができる。【観察、学習カード、単元テスト】

<主体的に学習に取り組む態度①>

- ・欲求やストレスへの対処について、課題の解決に向けての学習に自主的に取り組もうとしている。【観察】

主体的に学習に取り組む態度については、単元を通して評価をします。P. 9 より

(3) 本時の展開

	生徒の学習内容・活動	教師の指導・手立てと評価
はじめ 10分	1 前時に学習した内容について確認する。 2 本時の学習内容について確認する。	○前時の学習内容を確認し、自身の考えたストレス対処法を確認するよう指示する。 ○教師が前時の振り返りをし、本時の学習内容を提示する。
	【学習内容】ストレスへの対処について、リラクセーションの実習を通して理解し、ストレスによる心身の負担を軽くするような対処の方法を身に付けること	
なか 25分	3 前時に考えたストレス対処法をグループで共有する。 4 手軽にできるストレス対処法をグループで実践する。 【実習】	○人によって様々なストレスの対処法があることを理解できるよう促す。 指導知識及び技能⑥ 評価知識・技能⑥【観察】 ○ストレスによる心身の負担を軽くするようなリラクセーションについて、実習を通して理解を深めていけるよう促す。 ○緊張する場面など、具体的な状況についてイメージできるよう促す。
	予想されるストレス対処法 ・体ほぐし運動（ストレッチ、脱力運動） ・深呼吸、腹式呼吸 等	
	【発問】ストレス対処法を実践して、心や体にどのような変化があったかな？	
	予想される生徒の反応 ・リラックスできた。 ・気持ちが良い。 ・落ち着く。	
	5 実習を通して感じたこと、学んだことを学習カードに記入する。	○学習カードに記入することにより、本時の学習を振り返るよう促す。 評価知識・技能⑥【学習カード】
まとめ 15分	6 単元（6時間）を振り返る。 7 単元テストに取り組む。 8 まとめ	○単元（6時間）の振り返りを行い、学習した内容を想起できるよう促す。 評価知識・技能⑥【単元テスト】 <u>※定期テストにおいても評価を行う。</u> 評価主体的に学習に取り組む態度①【観察】 <u>※単元（6時間）を通して評価する。</u>

5 評価について

(1) 学習評価についての基本的な考え方¹⁴⁾

ア カリキュラム・マネジメントの一環としての指導と評価（図9）

「学習指導」と「学習評価」は学校の教育活動の根幹であり、教育課程に基づいて組織的かつ計画的に教育活動の質の向上を図る「カリキュラム・マネジメント」の中核的な役割を担っています。

イ 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善と評価

指導と評価の一体化の観点から、新学習指導要領で重視している「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を通して各教科等における資質・能力を確実に育成する上で、学習評価は重要な役割を担っています。

ウ 学習評価について指摘されている課題

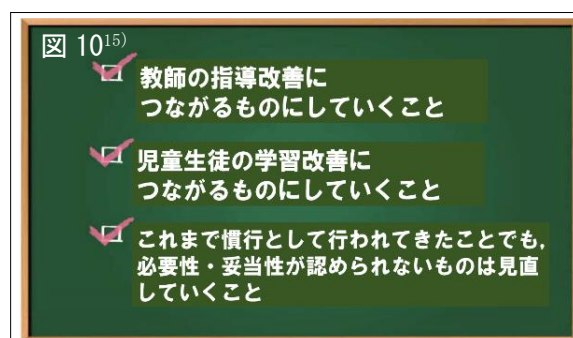
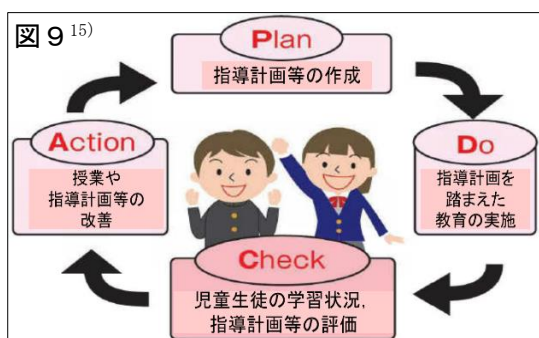
学習評価の現状としては、ア及びイで述べたような教育課程の改善や授業改善の一連の過程に学習評価を適切に位置付けた学校運営の取組がなされる一方で、例えば、学校や教師の状況によっては、

- ・学期末や学年末などの事後での評価に終始してしまうことが多く、評価の結果が児童生徒の具体的な学習改善につながっていない、
- ・現行の「関心・意欲・態度」の観点について、挙手の回数や毎時間ノートをとっているかなど、性格や行動面の傾向が一時的に表出された場面を捉える評価であるような誤解が払拭しきれていない、
- ・教師によって評価の方針が異なり、学習改善につなげにくい、
- ・教師が評価のための「記録」に労力を割かれて、指導に注力できない、
- ・相当な労力をかけて記述した指導要録が、次の学年や学校段階において十分に活用されていない、

といった課題が指摘されています。

エ 学習評価の改善の基本的な方向性

ウで述べた課題に応えるとともに、学校における働き方改革が喫緊の課題となっていることも踏まえ、これらの基本的な考え方（図10）に立って、学習評価を真に意味のあるものとすることが重要です。



(2) 3 観点の評価方法

ア 「知識・技能」の評価について⁵⁾

各教科等における学習の過程を通じた知識及び技能の習得状況について評価を行うとともに、それらを既有的知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活の場面でも活用できる程度に概念等を理解したり、技能を習得したりしているかについても評価します。

イ 「思考・判断・表現」の評価について⁵⁾

各教科等の知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているかを評価します。

ウ 「主体的に学習に取り組む態度」の評価について⁵⁾

単に継続的な行動や積極的な発言を行うなど、性格や行動面の傾向を評価するというのではなく、各教科等の「主体的に学習に取り組む態度」に係る観点の趣旨に照らして、知識及び技能を習得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているかどうかという意思的な側面を評価することが重要です。

本観点に基づく評価は、「主体的に学習に取り組む態度」に係る各教科等の評価の観点の趣旨に照らして、

- ① 知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとしている側面
- ② ①の粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面

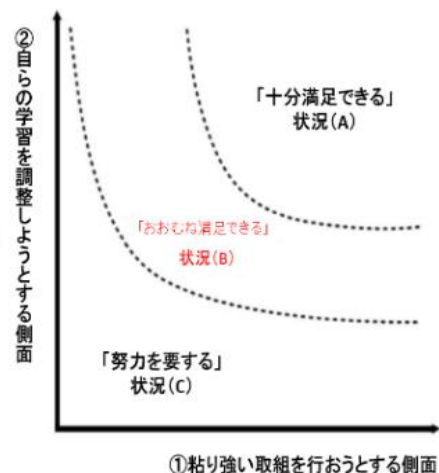
という二つの側面を評価することが求められます。（図11参照）

図 11¹⁵⁾

「主体的に学習に取り組む態度」の評価のイメージ

○「主体的に学習に取り組む態度」の評価については、①知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面と、②①の粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面、という二つの側面から評価することが求められる。

○これら①②の姿は実際の教科等の学びの中では別々ではなく相互に関わり合いながら立ち現れるものと考えられる。例えば、自らの学習を全く調整しようとせず粘り強く取り組み続ける姿や、粘り強さが全くない中で自らの学習を調整する姿は一般的ではない。



体育分野においては、**解説**には、「体育分野においては、『学びに向かう力、人間性等』の内容は、生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現に向けた体育学習に関わる態度に対応した、公正、協力、責任、参画、共生及び健康・安全の具体的な指導内容を示すこととした」²⁾として、具体的な指導内容（例示）が示されており、評価規準として設定し、それぞれの規準を基に評価します。

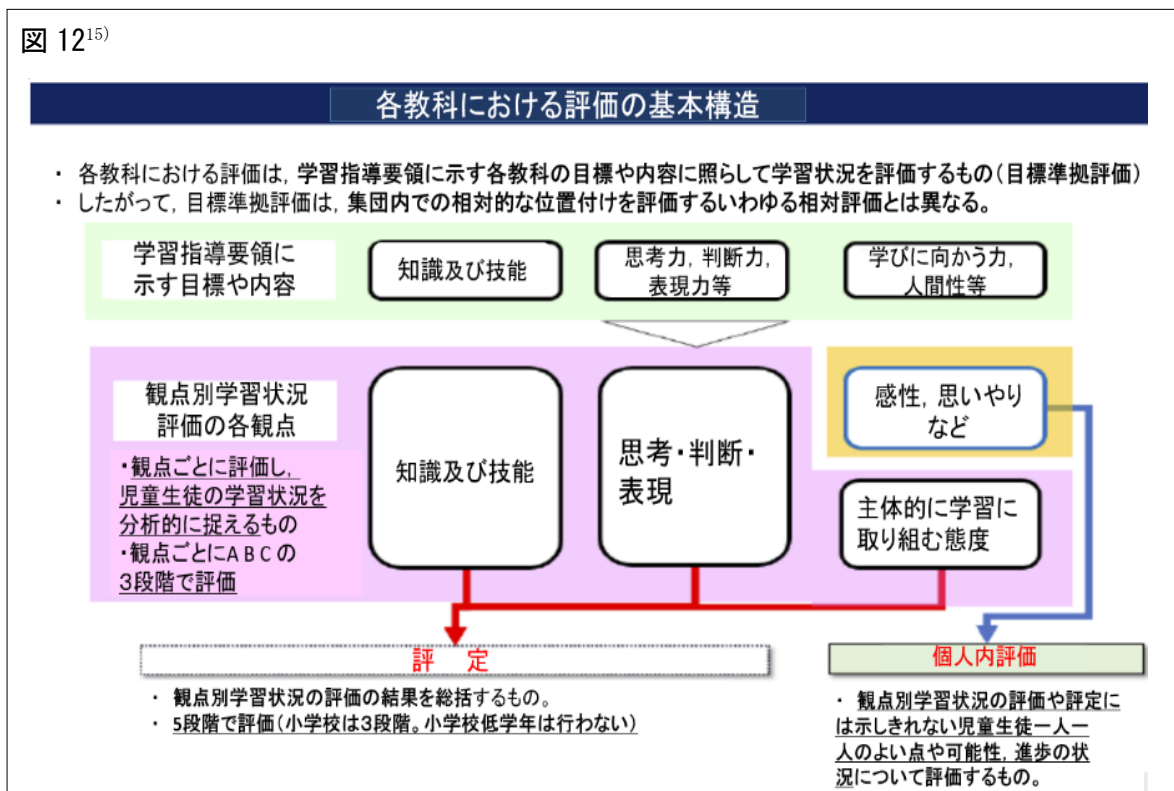
保健分野においては、具体的な指導内容（例示）が示されていないため、二つの側面（図11 参照）を適切に評価します。

※個人内評価について

観点別学習状況の評価や評定には示しきれない児童生徒一人一人のよい点や可能性、進歩の状況については、「個人内評価」として実施するものとされています（図12参照）。

改善等通知においては、「観点別学習状況の評価になじまず個人内評価の対象となるものについては、児童生徒が学習したことの意義や価値を実感できるよう、日々の教育活動等の中で児童生徒に伝えることが重要であること。特に『学びに向かう力、人間性等』のうち『感性や思いやり』など児童生徒一人一人のよい点や可能性、進歩の状況などを積極的に評価し児童生徒に伝えることが重要であること。」と示されています。⁵⁾

図 12¹⁵⁾



(3) 観点別学習状況の評価の総括及び評定への総括の考え方

ア 観点別学習状況の評価の総括及び評定への総括を行うに当たっての留意事項⁵⁾

- (ア) 指導と評価の一体化の考え方を踏まえると、体育分野で育成を目指す資質・能力に対応した指導内容をバランスよく指導し評価することが求められます。
- (イ) 観点別学習状況の評価の総括及び評定への総括を行うに当たっては、各単元への配当時間数や指導事項に対応した評価規準数を考慮するのか、観点別学習状況の評価を評定へ総括する際に観点ごとの比率を設定するのか等も含め、観点別学習状況の評価の総括及び評定への総括についての考え方や方法等を、各学校において十分検討しておく必要があります。
- (ウ) シラバスやオリエンテーション等の機会を通して、事前に生徒及び保護者等に対して十分な説明をしておくことが重要です。

イ 観点別学習状況の評価の総括及び評定への総括の例⁵⁾

単元ごとに得られている各観点における観点別学習状況の評価を、A、B、Cの三段階で実施するか、あるいは、この段階から5段階（例A[○]、A、B、C[○]、C や A[○]、A、B、C、C[△] など）で評価し、評定への総括に備えるのか検討しておく必要があります。

ここでは、国立教育政策研究所発行の「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」の事例を参考に、P. 49の年間計画を踏まえた第1学年第1学期の体育分野の評定への総括に備える例を解説します。

まず、「知識・技能」を例に、総括の仕方について説明します。

(7) A, B, Cを数値に表したものに基づいて総括する例

総括の規準の設定 $A > 2.50$ $2.50 \geq B \geq 1.50$ $1.50 > C$ とする例

この例では、指導と評価の計画において、それぞれの領域の評価規準数は、「体づくり運動」では、知識2、「陸上競技」では知識2、技能3、「器械運動」では知識2、技能4、「水泳」では知識2、技能3としています。また、数値化するときは、Aを3、Bを2、Cを1と設定しています。数値の合計から平均を算出し、総括の規準から評価を決定します。

表 14 知識と技能の総括例

「知識」 評価規準数が 8、合計が 22 なので平均は 2.75							
単元名	体づくり運動	陸上競技	器械運動	水泳	総括 (平均値)		
時間数	3	12	11	9			
項目	評価	評価	評価	評価			
知識	B (2) B (2)	A (3) A (3)	A (3) A (3)	A (3) A (3)	A (2.75)	A (2.56)	
技能		B (2) B (2) B (2)	B (2) B (2) B (2) A (3)	A (3) A (3) A (3)	B (2.40)		
「技能」 評価規準数が 10、合計が 24 なので平均は 2.40							
「知識」 評価規準数が 8、合計が 22 「技能」 評価規準数が 10、合計が 24 合わせて評価規準数が 18、合計が 46 なので平均は 2.56							

(4) A, B, Cの組合せに基づいて総括する例

事前の取り決めにより「数の多い方の評価とする」という場合もあります。この場合、上の表では「知識」の総括は、Aが6個、Bが2個なので「A」、「技能」の総括はAが4個、Bが6個なので「B」となります。

また、事前の取り決めとして「AA」の場合はA、「BB」の場合はBとし、「AB」「BA」の場合は、「知識」と「技能」の全ての評価の数を比べて多い方の評価とする場合、Aが10個、Bが8個となっていることから、Aと総括できます。

(ウ) 5段階（A[○]、A、B、C[○]、C）で評価し、評定への総括する例

P. 49 の年間計画を踏まえた第1学年第1学期の総括時の検討例

前ページに示した「知識・技能」に「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の評価を加えた各観点における学習状況の評価を、「A[○]、A、B、C[○]、C」の5段階での評価の総括の例を示します。（本事例では体育分野に限定して考え方の例を示しています）

表 15 学期での体育分野の総括例

単元名	体づくり運動	陸上競技	器械運動	水泳	総括 (平均値) 〈重み付け〉		評定 (平均値)
時間数	3	12	11	9			
項目	評価	評価	評価	評価			
知識	B (3) B (3)	A [○] (5) A (4)	A (4) A [○] (5)	A (4) A (4)	A or B (4.00)	A or B (3.88) 〈xx%〉	4 or 3 (3.87)
技能		B (3) B (3) A (4)	A (4) A [○] (5) A (4) A (4)	B (3) A (4) A (4)	A or B (3.80)		
思判表	A (4) A (4)	B (3) A (4)	A (4) A (4)	B (3)	A or B (3.71) 〈xx%〉		
態度	B (3)	A (4) A (4)	A [○] (5) A (4)	A (4)	A or B (4.00) 〈xx%〉		

各単元の時間数を考慮しない例として示しています。
時間数を鑑みて計算する方法も考えられます。

各単元の評価規準の数に決まりはありません。
設定した評価規準すべてを記載します。

評価結果（A[○]～C）を数値化し、合算 or 平均して値を算出し総括します。
ここでは、A[○]=5、A=4、B=3、C[○]=2、C=1として設定しています。

評定の決定方法は各学校で定めることとされており、表中に〈xx%〉と示されているように、評定を算出する際に、観点ごとに重みづけを設定することも考えられます。

また、体育分野・保健分野を合わせて総括することも十分に考えられます。各学校の実態に応じて、適切に設定をしていきましょう。

観点別学習状況の評価から評定への総括モデルについては、「カリキュラム・マネジメントの一環としての指導と評価 学習評価資料集（小学校、中学校）令和2年3月 神奈川県教育委員会」も参考にしてください。

6 解説の読み方（考え方）

(1) 体育分野の記載

解説では、体育分野の内容は、運動に関する領域及び知識に関する領域で構成されています。運動に関する領域は、「A 体づくり運動」、「B 器械運動」、「C 陸上競技」、「D 水泳」、「E 球技」、「F 武道」及び「G ダンス」であり、知識に関する領域は、「H 体育理論」です。

運動に関する領域では、(1) 知識及び技能（「体づくり運動」は知識及び運動）、(2) 思考力、判断力、表現力等、(3) 学びに向かう力、人間性等を内容として示しています。

知識に関する領域では、「ア知識」として、内容のまとまりごとの指導内容を示した上で、(ア)、(イ)、(ウ) に具体的な指導内容を示しています。また、「イ思考力、判断力、表現力等」、「ウ学びに向かう力、人間性等」を内容として示しています。²⁾

以上の内容は、ほぼ同じ記載のされ方で示されています。どのように記載されているか説明しますので、実際に**解説**を開いて確認してみましょう。

ア 運動に関する領域 「A 体づくり運動」～「G ダンス」の記載

B 器械運動

【第1学年及び第2学年】

器械運動は、マット運動、鉄棒運動、平均台運動及び跳び箱運動で構成され、器械の特性に応じて多くの「技」がある。これらの技に挑戦し、その技ができる楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。

小学校では、技ができることや技を繰り返したり組み合わせたりすることを学習している。

中学校では、これらの学習を受けて、技がよりよくできることや自己に適した技で演技することが求められる。

したがって、第1学年及び第2学年では、技ができる楽しさや喜びを味わい、器械運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、技がよりよくできるようにする。その際、技などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができるようにすることが大切である。また、器械運動の学習に積極的に取り組み、よい演技を認めることや一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めることなどに意欲をもち、健康や安全に気を配ることができるようになることが大切である。

なお、指導に際しては、知識の理解を基に運動の技能を身に付けたり、運動の技能を身に付けることで一層知識を深めたりするなど、知識と技能を関連させて学習させることや、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の内容をバランスよく学習させるようにすることが大切である。

(1) 知識及び技能

器械運動について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(1) 次の運動について、技ができる楽しさや喜びを味わい、器械運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、技をよりよく行うこと。

ア マット運動では、回転系や巧技系の基本的な技を滑らかに行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと及びそれらを組み合わせること。

イ 鉄棒運動では、支持系や懸垂系の基本的な技を滑らかに行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと及びそれらを組み合わせること。

ウ 平均台運動では、体操系やバランス系の基本的な技を滑らかに行うこ

紙面例

解説 P. 63～64

第1学年及び第2学年の器械運動

と、条件を変えた技や発展技を行うこと及びそれらを組み合わせること。
エ 跳び箱運動では、切り返し系や回転系の基本的な技を滑らかに行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと。

器械運動の各種目には多くの技があることから、これらの技を、運動の構造に基づいて、系、技群及びグループの視点によって系統的に分類した。系とは各種目の特性を踏まえて技の課題の視点から大きく分類したものである。技群とは類似の課題や技術の視点から分類したものである。グループとは類似の課題や技術に加えて、運動の方向や運動の経過の視点から分類したものである。さらに、各系統の技は、発展性を考慮して示している。なお、平均台運動と跳び箱運動については、技の数が少ないことから系とグループのみで分類している。この分類については、小学校から高等学校までの一貫性を図ったものである。

器械運動では、生徒の技能・体力の程度に応じて条件を変えた技、発展技などに挑戦するとともに、学習した基本となる技の出来映えを高めることも器械運動の特性や魅力に触れる上で大切であることから、発展技の例示を示すとともに、技の出来映えの質的変化を含めた指導内容の整理をしている。それによって自己の技能・体力の程度に適した技を選ぶための目安をより一層明らかにし、学習に取り組みやすくしようとしたものである。

○ 知識

器械運動の特性や成り立ちでは、器械運動は、マット運動、鉄棒運動、平均台運動及び跳び箱運動で構成され、種目に応じて多くの「技」があり、技の出来映えを競うことを楽しむ運動として多くの人々に親しまれてきた成り立ちがあること、オリンピック競技大会の種目では体操競技として行われており、主要な競技として発展してきたことを理解できるようにする。

技の名称や行い方では、技の名称は、運動の構造と関連して、懸垂・支持・上がり・回転などの運動の基本形態を示す名称と、運動の経過における、方向・姿勢・運動などの課題を示す名称によって成り立っていることを理解できるようにする。例えば、マット運動の「前方倒立回転及び」では、前方（方向課題）・倒立回転（運動の基本形態）・跳び（運動の課題）が示されている。技の行い方は、技の課題を解決するための合理的な動き方のポイントがあることを理解できるようにする。

その運動に関連して高まる体力では、器械運動は、それぞれの種目や系、技群、グループにより主として高まる体力要素が異なることを理解できるように

記載内容の説明

領域名

【第1学年及び第2学年】

(領域)は、～中略～のできる運動(領域)である。

小学校では、～中略～学習している(取り組んでいる)。

中学校では、これらの学習を受けて、～中略～が求められる。

したがって、第1学年及び第2学年では、～中略～などを理解するとともに、～中略～をできるようにする。その際、～中略～などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己(や仲間)の考えたことを他者に伝えることができるようにすることが大切である。また、(積極的に取り組む ルールやマナーを守る 話合いに参加する 違いを認めることなどに意欲をもつ 健康や安全に気を配る)ことができるようにすることが大切である。

なお、指導に際しては、～中略～が大切である。

(1) 知識及び技能

(領域)について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(要領の内容)

○知識

(知識の内容の解説)

〈例示〉～中略～

○技能

(技能の内容の解説)

〈例示〉～中略～

(2) 思考力、判断力、表現力等

〈例示〉～中略～

(3) 学びに向かう力、人間性等

〈例示〉～中略～

【第3学年】

第1学年及び第2学年の～中略～学習を受けて、第3学年では、～中略～を学習のねらいとしている。

したがって、第3学年では、～中略～大切である。

なお、指導に際しては、～中略～が大切である。

～以下略～

領域の特性

小・中学校の学習内容の接続

「知識及び技能」、
「思考力、判断力、
表現力等」、
「学びに向かう力、
人間性等」
の内容

指導上の留意事項
(全ての領域で同じ
内容)

「知識及び技能」、
「思考力、判断力、
表現力等」、「学びに
向かう力、人間性
等」の内容について
それぞれ
・要領の内容(□
内)
・内容の解説
・例示
が記載されていま
す。

第1・2学年、第3
学年の学習内容の接
続

以下の内容は、第
1・2学年と同じ構
成

イ 知識に関する領域 「H 体育理論」の記載

H 体育理論

【第1学年及び第2学年】

体育理論の内容は、体育分野における運動の実践や保健分野との関連を図りつつ、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成するため、第1学年では、運動やスポーツの多様性を、第2学年では、運動やスポーツの効果と学び方を、第3学年では文化としてのスポーツの意義を中心に構成されている。

また、これらの内容は、主に、中学校期における運動やスポーツの合理的な実践や生涯にわたる豊かなスポーツライフを送る上で必要となる運動やスポーツに関する科学的知識等を中心に示している。

これらの内容について学習したことを基に、思考し、判断し、表現する活動を通して、体育の見方・考え方を育み、現在及び将来における自己の適性に応じた運動やスポーツとの多様な関わり方を見付けることができるようにすることが大切である。

なお、運動に関する領域との関連で指導することが効果的な内容については、各運動に関する領域の「知識及び技能」で扱うこととしている。また、体育理論は各学年で3単位時間程度とされていることから、体育分野の他の運動に関する領域との関連を図りつつ、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」を育成するものとする。

○ 運動やスポーツの多様性

ア 知識

- (1) 運動やスポーツが多様であることについて、課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 運動やスポーツが多様であることについて理解すること。

- (7) 運動やスポーツは、体を動かしたり健康を維持したりするなどの必要性及び競い合うことや課題を達成することなどの楽しさから生みだされ発展してきたこと。
(4) 運動やスポーツには、行うこと、見ること、支えること及び知ることなどの多様な関わり方があること。
(9) 世代や機会に応じて、生涯にわたって運動やスポーツを楽しむためには、自己に適した多様な楽しみ方を見付けたり、工夫したりすることが大切であること。

2 各分野の目標 及び内容

紙面例

解説 P.189～190

第1学年及び第2学年の体育理論

運動やスポーツの合理的な実践を通して、楽しさや喜びを味わい、それらを生涯にわたる豊かに実践できるようにするとともに、見る、支える、知るなどの多様な関わり方を通して、生きがいや身近な文化と捉えることができるようにするためには、人はなぜ運動やスポーツを行うのかといった必要性や楽しさ、運動やスポーツを通して多様な関わり方や楽しみ方について理解するとともに、運動やスポーツの多様性に関心をもち、自分と運動やスポーツとの関わり方について、思考し、判断し、表現できるようにする必要がある。

このため、本内容では、運動やスポーツは人々の多様な必要性や独自の楽しさによって支えられ発展してきたこと、運動やスポーツには、する、みる、支える及び知るなどの多様な関わり方があること、体を動かす楽しさ、運動やスポーツの特性や魅力に応じた楽しさ、人々と協働する楽しさなどを味わう多様な楽しみ方があることなどを中心として構成している。



(7) 運動やスポーツの必要性と楽しさ

運動やスポーツは、体を動かしたり、健康を維持したりする必要性や、競技に応じた力を試したり、記録等を達成したり、自然と親しんだり、仲間と交流したり、感情を表現したりするなどの多様な楽しさから生みだされてきたことを理解できるようにする。

運動やスポーツは、人々の生活と深く関わりながら、いろいろな欲求や必要性を満たしつつ発展し、その時々の変化とともに、その捉え方が、競技としてのスポーツから、誰もが生涯にわたって楽しめるスポーツへと変容してきたことを理解できるようにする。

また、我が国のスポーツ基本法などを適宜取り上げ、現代におけるスポーツの理念についても触れるようにする。

(4) 運動やスポーツへの多様な関わり方

運動やスポーツには、「する、見る、支える、知る」などの多様な関わり方があることを理解できるようにする。

運動やスポーツには、直接「行うこと」に加えて、「見ること」には、例えば、テレビなどのメディアや競技場等での観戦を通して一体感を味わったり、

要領、解説での体育分野（体育理論を除く）の指導内容の示し方

技能

指導内容が具体的に示されています。

知識

指導内容は「～を理解できるようにする」と示されている内容

「～触れるようにする」「～取り上げるようにする」などは関連させて話題にする内容

思考力、判断力、表現力等

「課題を発見する」「取り組み方を工夫する」「思考し、判断する」（思考力、判断力）

「他者に伝える」（表現力）と示されています。

学びに向かう力、人間性等

愛好的態度、公正、協力、責任、参画、共生及び健康・安全の具体的な指導内容が示されています。

記載内容の説明

H 体育理論

〔第1学年及び第2学年〕

体育理論の内容は、～中略～構成されている。

また、これらの内容は、～中略～示している。

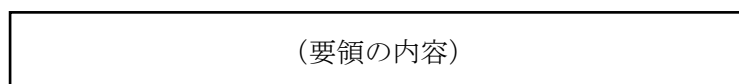
これらの内容について学習したことを基に、～中略～できるようにすることが大切である。

なお、運動に関する領域との関連で指導することが効果的な内容については、～中略～育成するものとする。

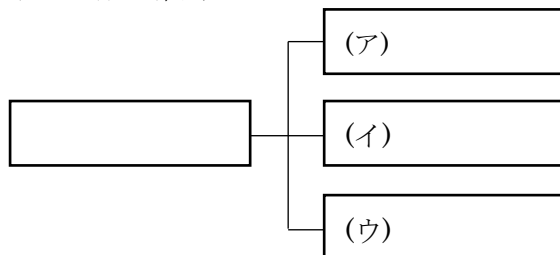
O (領域)

A 知識

(1) (領域の内容) について、課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。



(知識の内容の解説)



(ア) (内容)

(イ) (内容)

(ウ) (内容)

イ 思考力、判断力、表現力等

～中略～

ウ 学びに向かう力、人間性等

～中略～

〔第3学年〕

～以下略～

体育理論の内容

生徒に身に付けさせたい内容

運動に関する領域との関連

単元の構成図

「知識及び技能」、
「思考力、判断力、
表現力等」、「学びに
向かう力、人間性
等」の内容について
それぞれ

・ 要領の内容 (□
内)

・ 内容の解説
が記載されていま
す。

以下の内容は、第
1・2学年と同じ構
成

※P. 37、39 に示した他に、運動に関する領域、知識に関する領域とも「内容の取扱い」として、取り扱う学年、指導において配慮（考慮）する内容が示されています。

(2) 保健分野の記載

解説では、保健分野は「健康な生活と疾病の予防」、「心身の機能の発達と心の健康」、「傷害の防止」及び「健康と環境」の四つの内容で構成されています。

「ア知識」として、内容のまとまりごとの指導内容を示した上で、(ア)、(イ)、(ウ)、…に具体的な指導内容を示しています。また、「イ思考力、判断力、表現力等」を内容として示していますが、「ウ学びに向かう力、人間性等」は示していません。

・欲求やストレスとその対処について、習得した知識や技能を自他の生活と比較したり、活用したりして、心身の健康を保持増進する方法やストレスへの適切な対処の方法を選択すること。

・心身の機能の発達と心の健康について、課題の解決方法とそれを選択した理由などを、他者と話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて伝え合うこと。

(3) 傷害の防止

(3) 傷害の防止について、課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 傷害の防止について理解を深めるとともに、応急手当をすること。

(7) 交通事故や自然災害などによる傷害は、人的要因や環境要因などが関わって発生すること。

(4) 交通事故などによる傷害の多くは、安全な行動、環境の改善によって防止できること。

(9) 自然災害による傷害は、災害発生時だけでなく、二次災害によっても生じること。また、自然災害による傷害の多くは、災害に備えておくこと、安全に避難することによって防止できること。

(5) 応急手当を適切に行うことによって、傷害の悪化を防止することができること。また、心肺蘇生法などを行うこと。

イ 傷害の防止について、危険の予測やその回避の方法を考え、それらを表現すること。

小学校では、交通事故や身の回りの生活の危険が原因となって起こるけがの防止、すり傷や鼻出血などの簡単な手当などを学習している。

ここでは、傷害の発生には様々な要因があり、それらに対する適切な対策によって傷害の多くは防止できること、応急手当は傷害の悪化を防止することができることを理解できるようにすることが必要である。また、包帯法やAED（自動体外式除細動器）の使用を含む心肺蘇生法などの応急手当ができるようになることが必要である。さらに、危険を予測し、その回避の方法を考え、それらを表現することができるようにすることが必要である。

このため、本内容は、交通事故や自然災害などによる傷害は人的要因、環境要因及びその相互の関わりによって発生すること、交通事故などの傷害の多くはこれらの要因に対する適切な対策を行うことによって防止できること、また、自然

紙面例

解説 P. 219～220 傷害の防止

災害による傷害の多くは災害に備えておくこと、災害発生時及び発生後に周囲の状況に応じて安全に行動すること、災害情報を把握することで防止できること、及び迅速かつ適切な応急手当は傷害の悪化を防止することができることなどの知識及び応急手当の技能と、傷害の防止に関する課題を解決するための思考力、判断力、表現力等を中心として構成している。

ア 知識及び技能

(7) 交通事故や自然災害などによる傷害の発生要因

交通事故や自然災害などによる傷害は、人的要因、環境要因及びそれらの相互の関わりによって発生すること、人的要因としては、人間の心身の状態や行動の仕方について、環境要因としては、生活環境における施設・設備の状態や気象条件などについて理解できるようにする。

なお、学校の状況に応じて、運動による傷害の発生要因について適宜取り

要領、解説での保健分野の指導内容の示し方

技能

「欲求やストレスとその対処」「応急手当の意義と実際」に「～ができるようにする」と示されています。

知識

指導内容は「～を理解できるようにする」と示されている内容

「～触れるようにする」「～取り扱う」などは関連させて話題にする内容

思考力、判断力、表現力等

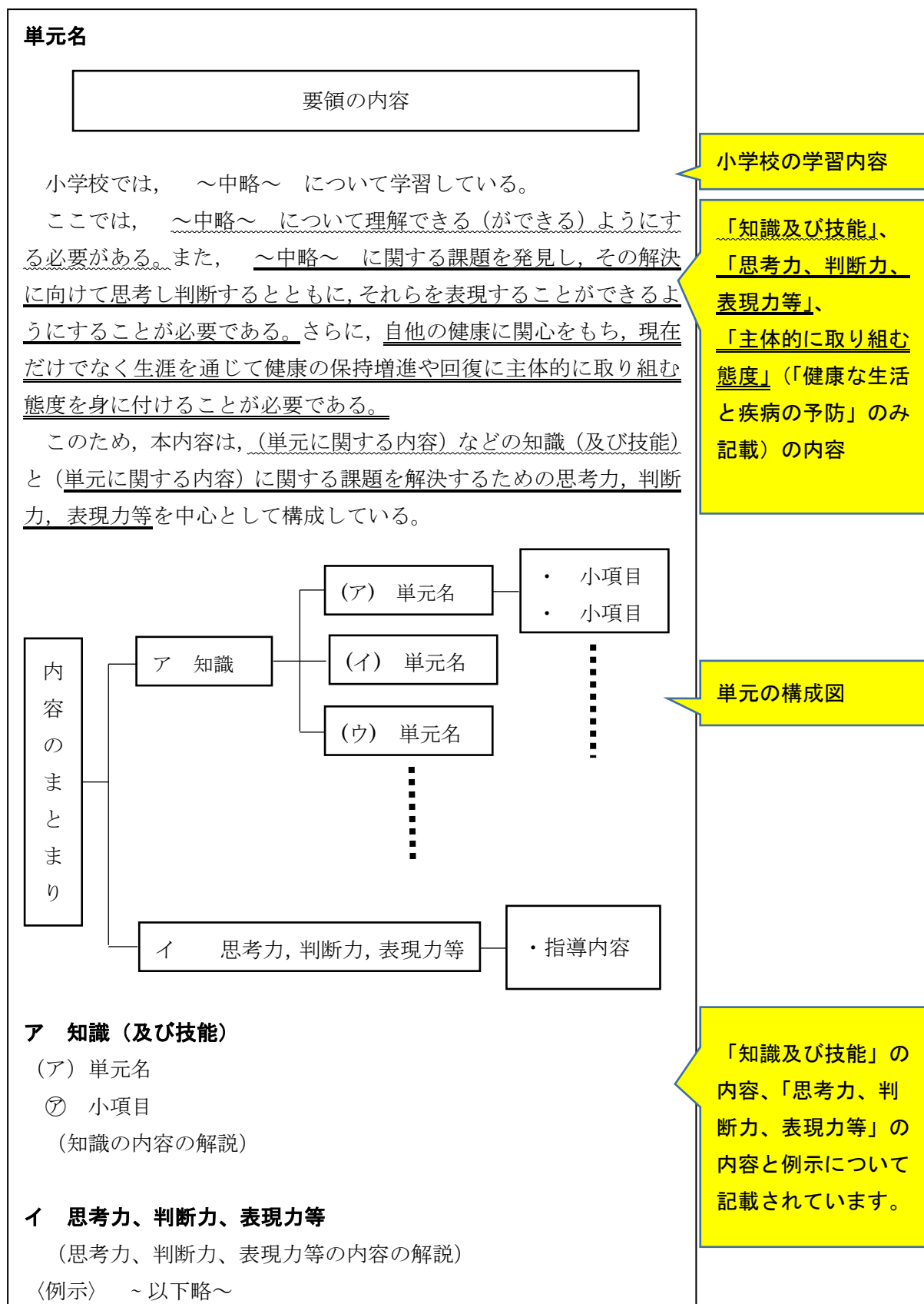
「課題を発見する」「解決方法を考え、適切な方法を選択する」（思考力、判断力）

「伝え合う」（表現力）と示されています。

主体的に学習に取り組む態度

指導内容は具体的には示していません。

記載内容の解説



※他に、「内容の取扱い」として、取り扱う学年、指導において配慮（考慮）する内容が示されています。

(3) 指導計画の作成と内容の取扱いの記載

要領には「指導計画の作成と内容の取扱い」（P.129～131）として、次の内容が示されています。

- ・指導計画の作成において配慮する事項について

目標を鑑みた授業での留意点、授業時数の配当、障害のある生徒への配慮、道徳科などとの関連など。

- ・内容の取扱いについて

運動の多様な楽しみ方を共有すること、自主的な学習活動の充実を図ること、情報手段を積極的に活用すること、具体的な体験を伴う学習の工夫を行うよう留意すること、個に応じた指導の充実が図られるよう留意すること、日常生活における体育・健康に関する活動が適切かつ継続的に実践できるよう留意すること、体育分野と保健分野の相互の関連が図られるよう留意することなど。

また、これらの内容について**解説**（P.229～242）では、さらに具体的に示されています。

特に、障害のある生徒への配慮については、「障害のある生徒などの指導に当たっては、個々の生徒によって、見えにくさ、聞こえにくさ、道具の操作の困難さ、移動上の制約、健康面や安全面での制約、発音のしにくさ、心理的な不安定、人間関係形成の困難さ、読み書きや計算等の困難さ、注意の集中を持続することが苦手であることなど、学習活動を行う場合に生じる困難さが異なることに留意し、個々の生徒の困難さに応じた指導内容や指導方法を工夫すること」が各教科で示されており、**解説**（P.233～235）の内容については、必ず確認するようにしましょう。

小学校学習指導要領（平成29年告示）解説体育編の特徴的な内容

「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説体育編」では、運動領域の知識及び技能の内容に「運動（遊び）が苦手な児童への配慮の例」、学びに向かう力、人間性等の内容に「運動（遊び）に意欲的でない児童への配慮の例」が示されています。これらは中学校、高等学校の学習指導要領解説には示されていませんが、指導の際の参考になるので、ぜひ目を通しておきましょう。

「運動（遊び）が苦手な児童への配慮の例」

- ・開脚前転が苦手な児童には、前転の起き上がる速さをつけたり、傾斜を利用したりして、勢いをつけて回転する動きが身に付くようにするなどの配慮をする。（第5・6学年 器械運動 マット運動より）

「運動（遊び）に意欲的でない児童への配慮の例」

- ・仲間の前で表現やフォークダンスを行うことに意欲的に取り組めない児童には、授業の導入で、中学年のリズムダンスで学習したへそ（体幹部）を中心に軽快なリズムに乗って踊る活動を取り入れ、心と体をほぐすなどの配慮をする。（第5・6学年 表現運動より）

7 12 年間の学びの系統性

系統性を踏まえた指導内容

指導計画を立てる際には、小学校から高等学校までの12年間を見通した系統性のある指導内容となるよう考慮しましょう。中央教育審議会答申では、保健体育科の指導内容について、体育、保健とも「小学校、中学校、高等学校を通じて系統性のある指導ができるように示す必要がある」³⁾としています。これを受けて、**解説**では、体育分野は小学校段階との接続及び高等学校への見通しを重視した指導内容、保健分野では小学校及び高等学校の内容を踏まえた指導内容を示しています。

つまり、指導計画を立てる際には、中学校3年間の見通しだけでなく、小学校、高等学校との接続や発達段階のまとまりに応じた系統性のある指導内容を考える必要があるということです。

例えば、**解説**の例示（ボール運動系・球技）には、次のような系統性が見られます。

○知識及び技能

- 「簡単なボール操作と攻めや守りの動き」（小1・2）
- 「基本的なボール操作とボールを持たないときの動き」（小3・4）
- 「ボール操作とボールを持たないときの動き」（小5・6）
- 「ボール操作と空間に走り込むなどの動き」（中1・2）
- 「安定したボール操作と空間を作りだすなどの動き」（中3・高1）
- 「状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの動き」（高2～）

○思考力、判断力、表現力等

- 「攻め方を選んだり」（小1・2）
- 「ゲームの型に応じた簡単な作戦を選んだり」（小3・4）
- 「自己やチームの特徴に応じた作戦を選んだり」（小5・6）
- 「攻防などの自己の課題を発見」（中1・2）
- 「攻防などの自己やチームの課題を発見」（中3・高1）
- 「生涯にわたって運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見」（高2～）

○学びに向かう力、人間性等

- 「運動遊び（運動）に進んで取り組む」（小1・2）（小3・4）
- 「運動（球技）に積極的に取り組む」（小5・6）（中1・2）
- 「球技に自主的に取り組む」（中3・高1）
- 「球技に主体的に取り組む」（高2～）

実際に、**要領**や**解説**に示されている内容を比べてみると（P.45～48）、系統性があることが分かります。指導計画を立てる際には、ここに示した領域以外の系統性についても、小・中・高の**要領**、**解説**を比べてみましょう。（表15～19 体育指導センター作成）

表 15 ボール運動系・球技の「知識及び技能」の系統（右ページへ続く）

小学校第 1 学年及び第 2 学年	小学校第 3 学年及び第 4 学年	小学校第 5 学年及び第 6 学年
○運動遊びの楽しさに触れる	○運動の楽しさや喜びに触れる	○運動の楽しさや喜びを味わう
○行い方を知る	○行い方を知る	○行い方を理解する
○易しいゲームをする	○易しいゲームをする	○技能を身に付け、簡易化されたゲームをする
ボールゲーム ・簡単なボール操作と攻めや守りの動きによって、易しいゲームをする 鬼遊び ・一定の区域で、逃げる、追いかける、陣地を取り合うなどをする	ゴール型ゲーム ・基本的なボール操作とボールを持たないときの動きによって、易しいゲームをする	ゴール型 ・ボール操作とボールを持たないときの動きによって、簡易化されたゲームをする
	ネット型ゲーム ・基本的なボール操作とボールを操作できる位置に体を移動する動きによって、易しいゲームをする	ネット型 ・個人やチームによる攻撃と守備によって、簡易化されたゲームをする
	ベースボール型ゲーム ・蹴る、打つ、捕る、投げるなどのボール操作と得点をとったり防いだりする動きによって、易しいゲームをする	ベースボール型 ・ボールを打つ攻撃と隊形をとった守備によって、簡易化されたゲームをする

表 16 ボール運動系・球技の「思考力、判断力、表現力等」の系統（右ページへ続く）

小学校第 1 学年及び第 2 学年	小学校第 3 学年及び第 4 学年	小学校第 5 学年及び第 6 学年
簡単な規則を工夫したり、攻め方を選んだりするとともに、考えたことを友達に伝える	規則を工夫したり、ゲームの型に応じた簡単な作戦を選んだりするとともに、考えたことを友達に伝える	ルールを工夫したり、自己やチームの特徴に応じた作戦を選んだりするとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える

表 17 ボール運動系・球技の「学びに向かう力、人間性等」の系統（右ページへ続く）

小学校第 1 学年及び第 2 学年	小学校第 3 学年及び第 4 学年	小学校第 5 学年及び第 6 学年
・運動遊びに進んで取り組む	・運動に進んで取り組む	・運動に積極的に取り組む
・規則を守り誰とでも仲よく運動をする	・規則を守り誰とでも仲よく運動をする	・ルールを守り助け合って運動をする
・勝敗を受け入れる	・勝敗を受け入れる	・勝敗を受け入れる
	・友達の考えを認める	・仲間の考えや取組を認める
・場や用具の安全に気を付ける	・場や用具の安全に気を付ける	・場や用具の安全に気を配る

(左ページから続く)

中学校第 1 学年及び第 2 学年	中学校第 3 学年 高等学校入学年次	高等学校その次の年次以降
○勝敗を競う楽しさや喜びを味わう	○勝敗を競う楽しさや喜びを味わう	○勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わう
○球技の特性や成り立ち，技術の名称や行い方，その運動に関連して高まる体力などを理解する	○技術の名称や行い方，体力の高め方，運動観察の方法などを理解する	○技術などの名称や行い方，体力の高め方，課題解決の方法，競技会の仕方などを理解する
○基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームを展開する	○作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開する	○作戦や状況に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開する
ゴール型	ゴール型	ゴール型
・ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防をする	・安定したボール操作と空間を作り出すなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防をする	・状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの動きによって空間への侵入などから攻防をする
ネット型	ネット型	ネット型
・ボールや用具の操作と定位置に戻るなどの動きによって空いた場所をめぐる攻防をする	・役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をする	・状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防をする
ベースボール型	ベースボール型	ベースボール型
・基本的なバット操作と走塁での攻撃，ボール操作と定位置での守備などによって攻防をする	・安定したバット操作と走塁での攻撃，ボール操作と連携した守備などによって攻防をする	・状況に応じたバット操作と走塁での攻撃，安定したボール操作と状況に応じた守備などによって攻防をする

(左ページから続く)

中学校第 1 学年及び第 2 学年	中学校第 3 学年 高等学校入学年次	高等学校その次の年次以降
攻防などの自己の課題を発見し，合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに，自己や仲間の考えたことを他者に伝える	攻防などの自己やチームの課題を発見し，合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに，自己や仲間の考えたことを他者に伝える	生涯にわたって運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見し，合理的，計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに，自己やチームの考えたことを他者に伝える

(左ページから続く)

中学校第 1 学年及び第 2 学年	中学校第 3 学年 高等学校入学年次	高等学校その次の年次以降
・球技に積極的に取り組む	・球技に自主的に取り組む	・球技に主体的に取り組む
・フェアなプレイを守ろうとする	・フェアなプレイを大切にしようとする	・フェアなプレイを大切にしようとする
・作戦などについての話合いに参加しようとする	・作戦などについての話合いに貢献しようとする	・合意形成に貢献しようとする
・一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとする	・一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする	・一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする
・仲間の学習を援助しようとする	・互いに助け合い教え合おうとする	・互いに助け合い高め合おうとする
・健康・安全に気を配る	・健康・安全を確保する	・健康・安全を確保する

保健分野では、目標や指導内容を理解し、系統性を踏まえ、それぞれの段階に応じた学習内容や教材の内容を考える必要があります。

例えば、感染症の予防に関する単元では、知識の内容として感染症の要因と予防について示されており、小学校では基礎的なこと、中学校では感染、発病、予防に関する具体的な内容や早期治療について、高等学校では発生や流行に関する具体的な内容や個人の取り組み、社会的対策による予防について学習することが、解説に示されています。

表 18 保健分野（感染症の予防に関する単元）の「知識」の系統

学年	小学校第 6 学年	中学校第 3 学年	高等学校
単元	(3) 病気の予防 (イ) 病原体が主な要因となって起こる病気の予防	(1) 健康な生活と疾病の予防 (オ) 感染症の予防	(1) 現代社会と健康 (イ) 現代の感染症とその予防
指導要領	病原体が主な要因となって起こる病気の予防には、病原体が体に入るのを防ぐことや病原体に対する体の抵抗力を高めることが必要であること。	感染症は、病原体が主な要因となって発生すること。また、感染症の多くは、発生源をなくすこと、感染経路を遮断すること、主体の抵抗力を高めることによって予防できること。	現代の感染症とその予防感染症の発生や流行には、時代や地域によって違いがみられること。その予防には、個人の取組及び社会的な対策を行う必要があること。
解説	病原体が主な要因となって起こる病気として、インフルエンザ、麻疹、風疹、結核などを適宜取り上げ、	感染症は、病原体が環境を通じて主体へ感染することで起こる疾病であり、適切な対策を講ずることにより感染のリスクを軽減することができることを、例えば、結核、コレラ、ノロウイルスによる感染性胃腸炎、麻疹、風疹などを適宜取り上げ理解できるようにする。病原体には、細菌やウイルスなどの微生物があるが、温度、湿度などの自然環境、住居、人口密度、交通などの社会環境、また、主体の抵抗力や栄養状態などの条件が相互に複雑に関係する中で、病原体が身体に侵入し、感染症が発病することを理解できるようにする。その際、病原体の種類によって感染経路が異なることにも触れるものとする。	感染症は、時代や地域によって自然環境や社会環境の影響を受け、発生や流行に違いが見られることを理解できるようにする。その際、交通網の発達により短時間で広がりやすくなっていること、また、新たな病原体の出現、感染症に対する社会の意識の変化等によって、腸管出血性大腸菌（O157 等）感染症、結核などの新興感染症や再興感染症の発生や流行が見られることを理解できるようにする。
	その予防には、病原体の発生源をなくしたり、移る道筋を断ち切ったりして病原体が体に入るのを防ぐこと、また、予防接種や適切な運動、食事、休養及び睡眠をとることなどによって、体の抵抗力を高めておくことが必要であることを理解できるようにする。	感染症を予防するには、消毒や殺菌等により発生源をなくすこと、周囲の環境を衛生的に保つことにより感染経路を遮断すること、栄養状態を良好にしたり、予防接種の実施により免疫を付けたりするなど身体の抵抗力を高めることが有効であることを理解できるようにする。また、感染症にかかった場合は、疾病から回復することはもちろん、周囲に感染を広げないためにも、できるだけ早く適切な治療を受けることが重要であることを理解できるようにする。	また、感染症のリスクを軽減し予防するには、衛生的な環境の整備や検疫、正しい情報の発信、予防接種の普及など社会的な対策とともに、それらを前提とした個人の取組が必要であることを理解できるようにする。

また、保健分野の思考力、判断力、表現力等については、解説に示されている指導内容は「課題発見」、「課題解決」、「表現」について示されており、それぞれの内容に系統性があることが読み取れます。

表 19 保健分野（感染症の予防に関する単元を含む領域）の「思考力、判断力、表現力等」の系統

学年	小学校第 6 学年	中学校第 3 学年	高等学校
単元	(3) 病気の予防 (ア) 病気の起こり方 (イ) 病原体が主な要因となって起こる病気の予防	(1) 健康な生活と疾病の予防 (ウ) 感染症の予防	(1) 現代社会と健康 (イ) 現代の感染症とその予防
内容	病気の予防に関わる事象から課題を見付け、病気を予防する視点から解決の方法を考え、適切な方法を選び、それらを説明することができるようにする。	健康な生活と疾病の予防に関わる事象や情報から課題を発見し、疾病等のリスクを軽減したり、生活の質を高めたりすることなどに関連付けて解決方法を考え、適切な方法を選択し、それらを伝え合うことができるようにする。	現代社会と健康に関わる事象や情報から課題を発見し、疾病等のリスクの軽減、生活の質の向上、健康を支える環境づくりなどと、解決方法を関連付けて考え、適切な方法を選択し、それらを説明することができるようにする。
課題発見	病気の予防に関わる事象から課題を見付け、 ・病気の予防について、病原体、体の抵抗力、生活行動、環境などの要因から課題を見付けること。	健康な生活と疾病の予防に関わる事象や情報から課題を発見し、 ・健康な生活と疾病の予防における事柄や情報などについて、保健に関わる原則や概念を基に整理したり、個人生活と関連付けたりして、自他の課題を発見すること。	現代社会と健康に関わる事象や情報から課題を発見し、 ・現代社会と健康における事象や情報などについて、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見すること。
課題解決	病気を予防する視点から解決の方法を考え、適切な方法を選び、 ・病気の予防や回復に関する課題について、学習したことを活用して解決の方法を考えたり、選んだりすること。 ・いくつかの病気の要因や起こり方を比べて、それぞれの病気に応じた予防の方法を選ぶこと。	疾病等のリスクを軽減したり、生活の質を高めたりすることなどに関連付けて解決方法を考え、適切な方法を選択し、 ・感染症の予防や健康を守る社会の取組について、習得した知識を自他の生活に適用したり、応用したりして、疾病等にかかるリスクを軽減し健康を保持増進する方法を選択すること。	疾病等のリスクの軽減、生活の質の向上、健康を支える環境づくりなどと、解決方法を関連付けて考え、適切な方法を選択し、 ・感染症の発生や流行には時代や地域によって違いがみられることについて、事例を通して整理し、感染のリスクを軽減するための個人の取組及び社会的な対策に応用すること。
表現	それらを説明することができるようにする。 ・病気の予防について、病気の予防や回復のために考えたり、選んだりした方法がなぜ適切であるか、理由をあげて学習カードなどに書いたり、友達に説明したりすること。	それらを伝え合うことができるようにする。 ・健康な生活と疾病の予防について、課題の解決方法とそれを選択した理由などを、他者と話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて伝え合うこと。	それらを説明することができるようにする。 ・現代社会と健康について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明すること。

8 年間指導計画の例

				第1学年			第2学年			第3学年											
2期	2期	月	週	1	2	3	1	2	3	1	2	3									
前	1	4	1	体づくり運動(3)			体づくり運動(3)			体づくり運動(3)											
			2	陸上競技 短距離走・リレー ハードル走 (12)			陸上競技 走り幅跳び 走り高跳び (10)			(選択Ⅰ) 器械運動 陸上競技 (10)											
			3																		
		5	4																		
			5																		
			6																		
		6	7	保健 ①② (4)	器械運動 マット運動 跳び箱運動 (11)		保健 ③④⑤⑥ (8)	器械運動 マット運動 (選択) 鉄棒運動 平均台運動 (10)		保健 ①② (8)	(選択Ⅱ) サッカー バレーボール (10)										
			8																		
			9																		
		10																			
		7	11	水泳 (9)			水泳 (8)			水泳 (8)											
			12																		
			13																		
2	9	14	体育 理論 (3)	球技 サッカー (11)		体育 理論 (3)	球技 バスケットボール (14)		体づくり運動(4)												
		15							(選択Ⅲ) 陸上競技 ダンス (14)												
		16																			
		10	17			体づくり運動(4)							体づくり運動(4)								
			18																		
			19																		
	11	20	保健 ③④ (6)	ダンス (12)		保健 ①② (8)	ダンス (12)		保健 ③④⑤ (8)	(選択Ⅳ) バスケットボール 武道 (13)											
		21																			
		22																			
		23																			
		24																			
		25																			
後	12	26	保健 ⑤⑥ (6)	球技 バレーボール (12)		保健 ①② (8)	球技 ソフトボール (13)		保健 ③④⑤ (8)	(選択Ⅴ) バドミントン 卓球 (12)											
		27																			
		28																			
	1	29																			
		2										30									
												31									
	3		32			武道 (12)			武道 (12)			(選択Ⅵ) ソフトボール 武道 (12)									
		33																			
						保 健 の 内 容	健康な生活と疾病の予防 ①健康の成り立ちと疾病の発生要因 ②生活習慣と健康 心身の機能の発達と心の健康 ③身体機能の発達 ④生殖に関わる機能の成熟 ⑤精神機能の発達と自己形成 ⑥欲求やストレスへの対処と心の健康			健康な生活と疾病の予防 ①生活習慣病などの予防 ②喫煙、飲酒、薬物乱用と健康 傷害の防止 ③交通事故や自然災害などによる傷害の発生 要因 ④交通事故などによる傷害の防止 ⑤自然災害による傷害の防止 ⑥応急手当の意義と実際					健康な生活と疾病の予防 ①感染症の予防 ②健康を守る社会の取組 健康と環境 ③身体の環境に対する適応能力・至適範囲 ④飲料水や空気の衛生的管理 ⑤生活に伴う廃棄物の衛生的管理						

年間指導計画を立てる際には、まずは学習指導要領に示されている「内容の取扱い」^{1) 2)}を確認します。自校の年間指導計画について、次の項目をチェックしてみましょう。

- ☐ 8領域全てを、全ての生徒が履修できる。
- ☐ 「体づくり運動」及び「体育理論」については、3年間にわたって履修できる。
- ☐ 第3学年においては、「器械運動」、「陸上競技」、「水泳」及び「ダンス」から1つ以上を、「球技」及び「武道」から1つ以上をそれぞれ選択して履修できる。
- ☐ 「体づくり運動」については、各学年で7単位時間以上配当してある。
- ☐ 「器械運動」については、第1～2学年の2年間で、マット運動、鉄棒運動、平均台運動、跳び箱運動から、マット運動を含む2つを選択して履修できる。第3学年においては、4つの中から選択して履修できる。
- ☐ 「陸上競技」については、第1～2学年の2年間で、短距離走・リレー、長距離走、ハードル走の中から、また、走り幅跳び、走り高跳びの中から1つ以上それぞれ選択して履修できる。第3学年では、これらの中から自己に適した運動種目を選択できる。
- ☐ 「水泳」については、第1～2学年においては、クロール、平泳ぎ、背泳ぎ、バタフライの中からクロール又は平泳ぎのいずれかを含む2つを選択して履修できる。第3学年においては、複数の泳法又はリレーを含む5つの中から選択して履修できる。
- ☐ 「球技」については、第1～2学年の2年間で、ゴール型、ネット型、ベースボール型を全ての生徒が履修できる。第3学年においては、3つの中から2つを選択して履修できる。また、ゴール型については、バスケットボール、ハンドボール、サッカーの中から、ネット型については、バレーボール、卓球、テニス、バドミントンの中から、ベースボール型については、ソフトボールを履修できる。
- ☐ 「武道」については、柔道、剣道、相撲の中から1つを選択して履修できる。
- ☐ 「ダンス」については、創作ダンス、フォークダンス、現代的なリズムのダンスの中から選択して履修できる。
- ☐ 「体育理論」については、「運動やスポーツの多様性」は第1学年、「運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方」は第2学年、「文化としてのスポーツの意義」は第3学年で取り上げている。
- ☐ 「体育理論」については、各学年で3単位時間以上を配当してある。
- ☐ 第3学年の領域の選択に当たっては、安全を十分に確保した上で、生徒が自由に選択して履修することができるよう配慮してある。
- ☐ 授業時間は各学年105単位時間であり、保健分野の授業時数は、3年間で48単位時間程度配当してある。

上記の他、前年度の課題を踏まえた3年間を見通した指導計画を立てることも大切です。

なお、履修する運動は、運動場や体育館、武道場、プールなどの施設、指導者、文化など、学校や地域の実態に応じて設定することもできます。

また、体育においては、学校行事との関連や第3学年と高等学校第1学年との接続、保健においては、他教科との教科横断的な内容を考慮して、配置することもできます。

9 參考資料

単元構造図のサンプル 中学校 第1学年 球技(ネット型 バレーボール)(体育指導センター作成)

① 単元名		中学校第1学年 球技(ネット型：バレーボール)	
② 指導内容の概要		③ 学習指導要領の内容 (第1・2学年)	④ 学習指導要領解説の記載内容(第1・2学年)
第1学年及び第2学年では、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームを展開すること。	(1) 知識及び技能	(1) 次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームを展開すること。 イ ネット型では、ボールや用具の操作と定位置に戻るなどの動きによって空いた場所をめぐる攻防をする。	○知識 指導に際しては、動きの獲得を通して一層知識の大切さを実感できるようにすることや知識を活用し課題を発見・解決するなどの「思考力、判断力、表現力等」を育む学習につながるよう、汎用性のある知識を精選した上で、知識を基盤とした学習の充実を図ることが大切である。 ○技能 ボールや用具の操作とは、基本となる用具の握り方(グリップ)、ボールを受ける前の身体や用具の構え方(準備姿勢)から、ボールを捉える位置への移動の仕方(ステップ)、腕や用具の振り方(テイクバックやスイング)、ボールの捉え方(インパクト)、ボールを捉えた後の身体や用具の操作(フォロースルー)などで、身体や用具を操作してボールを味方につないだり、相手側のコートに打ち返したりすることである。 定位置に戻るなどの動きとは、相手側のコートにボールを打ち返した後、基本的なステップなどを用いて自分のコートに空いた場所を作らないように定位置に戻り、次の攻撃に備えるなどのボールを持たないときの動きのことである。
	(2) 思考力、判断力、表現力等	(2) 攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。	攻防などの自己の課題を発見しとは、球技の特性を踏まえて、ボール操作やボールを持たないときの動き及び攻防などの改善についてのポイントを発見したり、仲間との関わり合いや健康・安全などについての自己の取り組み方の課題を発見したりすることを示している。 合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとは、ボール操作やボールを持たないときの動き、攻防、仲間との関わり方、安全上の留意点などの発見した課題を、合理的に解決できるように知識を活用したり、応用したりすることを示している。自己や仲間の考えたことを他者に伝えるとは、自己の課題について、自己や仲間が思考し判断したことを、言葉や文章などで表したり、他者にわかりやすく伝えたりすることを示している。 なお、第1学年及び第2学年では、「運動に関する思考力、判断力、表現力等」、「体力、健康・安全に関する思考力、判断力、表現力等」及び「運動実践につながる態度に関する思考力、判断力、表現力等」の中から、領域の特性に応じた思考・判断・表現の例を重点化して示している。 指導に際しては、第1学年及び第2学年においては、習得した知識を用いて仲間に課題や出来映えを伝えるなど、生徒が習得した知識を基に解決が可能な課題の提示の仕方を工夫することが大切である。
	(3) 学びに向かう力、人間性等	(3) 球技に積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ろうとすること、作戦などについての話し合いに参加しようとするなど、一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとするなど、健康・安全に気を配ること。	球技に積極的に取り組むとは、発達の段階や学習の段階に適した課題を設定したり、練習の進め方や場づくりの方法を選んだりする学習などに積極的に取り組むことを示している。そのため、人には誰でも学習によって体力や技能が向上する可能性があったといった挑戦することの意義を理解し、取り組めるようにする。 フェアなプレイを守ろうとすることは、球技は、チームや個人で勝敗を競う特徴があるため、規定の範囲で勝敗を競うといったルールや相手を尊重するといったマナーを守ったり、相手や仲間の健闘を認めたりして、フェアなプレイに取り組もうとすることを示している。そのため、ルールやマナーを守ることと球技独自の楽しさや安全性、公平性が確保されること、また、相手や仲間のすばらしいプレイやフェアなプレイを認めることで、互いを尊重する気持ちが強くなることを理解し、取り組めるようにする。 作戦などについての話し合いに参加しようとするとは、自己の課題の解決に向けた練習方法や作戦について話し合う場面で、自らの考えを述べるなど積極的に話し合いに参加しようとすることを示している。そのため、作戦などについて意思決定をする際には、話し合いを通して仲間の意見を聞くだけでなく自分の意見も述べるなど、それぞれの考えを伝え合うことが大切であることを理解し、取り組めるようにする。 一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとするとは、体力や技能の程度、性別や障害の有無に応じて、自己の状況に合った実現可能な課題の設定や挑戦を認めようとし、練習の仕方やゲームの修正を認めようとし、よりよいことを示している。そのため、運動やスポーツを行う際は、様々な違いを超えて参加者全員が楽しんだり達成感を味わったりするための工夫や調整が求められる場合があることなどを理解し、取り組めるようにする。 仲間の学習を援助しようとするとは、練習の際に、球出しなどの補助をしたり、チームの作戦や戦術などの学習課題の解決に向けて仲間に助言したりすることを示している。そのため、仲間の学習を援助することは、自己の能力を高めたり仲間との連帯感を高めたり気持ちよく活動したりすることにつながることを理解し、取り組めるようにする。 などの例には、分担した役割を果たそうとすることがある。これは、練習やゲームの際に、用具の準備や後片付け、記録や審判などの分担した役割に積極的に取り組もうとすることを示している。そのため、分担した役割を果たすことは、活動時間の確保につながることやグループの人間関係をよくすることににつながることを理解し、取り組めるようにする。 健康・安全に気を配るとは、体調の変化などに気を配ること、ボールやラケット、バットなどの用具の扱い方や、ゴールやネットの設置状態、練習場所などの自己や仲間の安全に留意すること、技能の難易度や自己の体力や技能の程度にあった運動をすること、仲間との関わり方を見付け、仲間に伝えること。(1年) ・体力や技能の程度、性別等の違いを踏まえて、仲間とともに楽しむための練習やゲームを行う方法を見付け、仲間に伝えること。(選択せず)
			○知識 球技には、集団対集団、個人対個人で攻防を展開し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性があること。(1年) ・学校で行う球技は近代になって開発され、今日では、オリンピック・パラリンピック競技大会においても主要な競技として行われていること。(2年) ・球技の各型の各種目において用いられる技術には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあること。(1・2年) ・対戦相手との競争において、技能の程度に応じた作戦や戦術を遣うことが有効であること。(2年) ・球技は、それぞれの型や運動種目によって主として高まる体力要素が異なること。(1年) ○技能 ・サーブでは、ボールやラケットの中心付近で捉えること。(1年) ・ボールを返す方向にラケット面を向けて打つこと。(選択せず) ・味方が操作しやすい位置にボールをつなぐこと。(1・2年) ・相手側のコートの空いた場所にボールを返すこと。(1年) ・テイクバックをとって肩より高い位置からボールを打ち込むこと。(2年) ○例示 ・相手の打球に備えた準備姿勢をとること。(1年) ・プレイを開始するときは、各ポジションの定位置に戻ること。(選択せず) ・ボールを打ったり受けたりした後、ボールや相手に正対すること。(2年)
内容の取扱い		オ 「E球技」の(1)の運動については、第1学年及び第2学年においては、アからウまでを全ての生徒に履修させること。第3学年においては、アからウまでの中から二を選択して履修できるようにすること。また、アについては、バスケットボール、バドミントン、サッカーの中から二を選択し、アについては、バレーボール、卓球、テニス、バドミントンの中から、ウについては、ソフトボールを適宜取り上げることとし、学校や地域の実態に応じて、その他の運動についても履修させることができること。なお、ウの実施に当たり、十分な広さの運動場の確保が難しい場合は指導方法を工夫して行うこと。	

第1学年の内容	
⑤ 授業のポイント (生徒への発問や声かけの仕方など)	
<p>「バレーボールの特徴は？」 ネット型であるバレーボールはネットをはさんで対峙し、チーム対チームで作戦を立てて得失点を競う楽しさがあるよ。</p> <p>「バレーボールに用いられる技術や作戦の名称を挙げてみよう。」 → スパイク、パス、トス、レシーブ、サーブ、ブロック 三段攻撃、オープン攻撃、フェイントなど</p> <p>「ネット型のバレーボールで特に高められる体力にはどのようなものがあるだろうか？」 → 巧緻性、スピード、筋瞬発力などが高まるよ。</p> <p>「反則には次のようなものがあるよ。」 → ボールを持つ、相手のコートに入る、ネットにさわる、同じ人が二回続けてかわる、3回までに返せない、サーブ順を間違える</p> <p>【中心付近を捉えたサーブ】 「ボールの中心を押し出すようなイメージで、腕をまっすぐ振ってサーブを打ってみよう。」 → 視点、押し出し、重心移動 【味方が操作しやすい位置にボールをつなぐ】 「どのような技術を使ったら良いでしょうか？」 → パスとレシーブのコツを覚えよう。 【空いた場所へボールを返す】 「どこにボールを返球したら自分たちに有利かな？」 → 相手コートを見たり声を掛け合ったりして、相手のいない場所を見つける。 【準備姿勢】 「ボールに早く反応するためには、どのような構えで待つとよいですか？」 → 相手から返球される時は、低く構えよう。 → 常にボールにへそを向けて構えよう。</p>	
<p>「教えてもらったことをもとに、バレーボールの技術に関する仲間の課題を分析してみよう」 → ボール操作に関する技術、ボールを持たないときの動き</p> <p>「課題の解決方法を教え合ってみよう」 → ボール操作に関する技術、ボールを持たないときの動き</p> <p>「チーム内で役割分担を考えよう」 → 分担した役割に応じた活動の仕方</p> <p>「提示した係分担で話し合いを進めよう」 → 話し合う場面でのチームへの関わり方</p>	
<p>・人には誰でも学習によって体力や技能が向上する可能性があるといった挑戦することの意義を理解し、取り組めるようにする。</p> <p>・運動やスポーツを行う際は、様々な違いを超えて、参加者全員が楽しんだり達成感を味わったりするための工夫や調整が求められる場合があることなどを理解し、取り組めるようにする。</p> <p>・仲間の学習を援助することは、自己の能力を高めたり仲間との連帯感を高めて気持ちよく活動したりすることにつながることを理解し、取り組めるようにする。</p> <p>・体調に異常を感じたら運動を中止すること、用具の扱い方や設置の仕方、起きやすいけがの事例などを理解し、取り組めるようにする。</p>	
評価の観点	知 識
	技 能
	思考・判断・表現
	主体的に学習に取り組む態度

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10			
オリエンテーション (ゲームⅠ ソフトバレーボール)	共通メニュー(準備運動、補強運動、今日の学習内容の確認) 体づくり運動の活用									評価方法	評価規準例	
	基本技術の練習 (オーバーハンドパス、アンダーハンドパス)				共通メニュー(ボール慣れ)							
	ゲームⅡ (セットバレーボール)				ゲームⅢ (ローインバクトバレーボール)			課題練習 班別リーグ戦				
共通メニュー(整理運動、振り返り、次回課題の確認等)												
バレーボールの特性や成り立ち、技術の名称や行い方、関連して高まる体力、ルールなどを理解する。										学習カード	①球技には、集団対集団、個人対個人で攻防を展開し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性があることについて、言ったり書き出したりしている。 ②球技の各型において用いられる技術には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。 ③球技は、それぞれの型や運動種目によって主として高まる体力要素が異なることについて、学習した具体例を挙げている。	
特性や成り立ち 評価			関連して高まる体力 評価			技術や作戦の名称 評価						
動きやゲームの様相「空いた場所への攻撃を中心にラリーを続けるゲーム」										観察	①サーブでは、ボールやラケットの中心付近で捉えることができる。(ボールや用具の操作) ②味方が操作しやすい位置にボールをつなぐことができる。(ボールや用具の操作) ③相手側のコートの空いた場所へボールを返すことができる。(ボールや用具の操作) ④相手の打球に備えた準備姿勢をとることができる。(定位置に戻るなどの動き)	
	落下地	ステップ	フォーム				中心付近を捉えたサーブ 評価	押し出し	重心移動			視点
		味方が操作しやすい位置にボールをつなぐ 評価		空いた場所への返球 評価		相手の打球に備えた準備姿勢 評価						
ラリーを続けるための運動の行い方における課題を発見し、工夫した解決方法を思考、判断して、仲間に分かりやすく伝える。										学習カード・観察	①提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。 ②仲間と協力する場で、分担した役割に応じた活動の仕方を見付けている。 ③仲間と話し合う場で、提示された参加の仕方に当てはめ、チームへの関わり方を見付けている。	
				仲間の課題をわかりやすく伝えること 評価				分担した役割に応じた活動の仕方 評価				
	運動のポイントや仲間の課題を見つけること							チームへの関わり方を見付けること 評価				
バレーボールの特性や成り立ち、技術の名称や行い方、関連して高まる体力、ルールなどを理解する。										観察・学習カード	①球技の学習に積極的に取り組もうとしている。 ②一人一人の違いに応じた課題や挑戦及び修正などを認めようとしている。 ③練習の補助をしたり仲間に助言したりして、仲間の学習を援助しようとしている。 ④健康・安全に留意している。	
積極的に取り組むこと 評価												
			仲間の学習を援助すること 評価									
						違いを認めること 評価						
健康・安全に留意すること 評価												
①		③			②					総合的な評価		
				②		③	④	①				
①	④		③		①		②	③				

新型コロナウイルス感染症対策について

今後は、社会全体が、長期間にわたり、新型コロナウイルス感染症とともに生きていかなければならないという認識の下、感染症対策と生徒の健やかな学びの保障の両立を図る必要があります。

学校では、「3つの密」を避ける、「人との間隔が十分とれない場合のマスクの着用」及び「手洗いなどの手指衛生」など基本的な感染対策を継続する「新しい生活様式」を導入するとともに、地域の感染状況を踏まえ、学習内容や活動内容を工夫しながら可能な限り、授業や部活動、各種行事等の教育活動を継続し、子どもの健やかな学びを保障していくことが必要です。

ア 「新しい生活様式」を踏まえた行動基準¹⁶⁾

新型コロナウイルス感染症と共に生きていく社会を作るためには、感染リスクはゼロにならないということを受け入れた上で、可能な限りリスクを低減させる努力をしながら学校教育活動を継続することが重要です。（この行動基準は、令和2年11月25日時点における感染の状況を踏まえて作成）

「新しい生活様式」を踏まえた学校の行動基準

地域の感染レベル	身体的距離の確保	感染リスクの高い 教科活動	部活動 (自由意思の活動)
レベル3	できるだけ2m程度 (最低1m)	行わない	個人や少人数での 感染リスクの低い活動 で短時間での活動に 限定
レベル2	1mを目安に 学級内で最大限の 間隔を取る	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"> ↓ 収束局面 感染リスク の低い活動 から徐々に 実施 </div> <div style="margin: 0 10px;">↑</div> <div style="text-align: center;"> 感染リスク の高い 活動を 停止 </div> </div>	感染リスクの低い活動 から徐々に実施し、教 師等が活動状況の確 認を徹底
レベル1	1mを目安に 学級内で最大限の 間隔を取る	適切な感染対策を行った 上で実施	十分な感染対策を行 った上で実施

※レベル1：ステージⅠ（ステージ新型コロナウイルス感染症分科会提言）

レベル2：ステージⅡ～Ⅲ レベル3：ステージⅢ～Ⅳ

イ 体育における運動時の留意点¹⁷⁾

レベル2における体育の授業における留意点として、次のように示されています。

- ・可能な限り屋外で実施すること。体育館など屋内で実施する必要がある場合は、特に呼気が激しくなるような運動を避けることを徹底すること。
- ・緊急事態宣言の対象地域に属する地域では、運動時のマスク着用による身体へのリスクを考慮して、マスクの着用は必要はないが、授業の前後における着替えや移動の際や、授業中、教師による指導内容の説明やグループでの話し合いの場面、用具の準備や後片付けの時など、児童生徒が運動を行っていない際は、可能な限りマスクを着用すること。また、呼気が激しくならない軽度な運動の際は、マスクを着用することが考えられる。

- ・緊急事態宣言の対象区域に属する地域における体育の授業内容について、集団で行う活動は避け、なるべく個人で行う活動とし、特定の少人数（2～3人程度）での活動を実施する際は十分な距離を空けて行うこととする。

また、接触が想定される武道とゴール型球技については、「既に以下の学習活動例を超える取組を実施している場合は、それぞれの授業計画に基づく学習活動を実施することで差し支えありません」との注釈がついて、次の通り、示されています。¹⁸⁾

中学校・高等学校 武道 柔道（例）

- 熱中症の危険性が少ないと考えられる場合においては、マスクの着用も考えられる。ただし、生徒の呼吸が苦しい様子が見られる場合には、マスクを外すように指導する。
- 固め技は、生徒同士の頭部が過度に密着しないように配慮して実施する。

学習指導要領及び解説に示されている内容〔技能〕		人数	時間	留意点
基本動作	姿勢と組み方	特定の相手	相手と組み合う活動は、活動時間の一定の割合（1/3程度）とする。	・隣のペアとの身体的距離を確保する。
	進退動作			
	崩しと体さばき			
	受け身			
・基本となる技 ・連絡技 ・得意技 ・変化技	投げ技	特定の少人数 （1組3名程度）		・固め技は、生徒同士の頭部が過度に密着しないように配慮して実施する。
	固め技			
攻防	・自由練習 ・試合	特定の少人数 （1組3名程度）		・固め技は、生徒同士の頭部が過度に密着しないように配慮して実施する。

中学校・高等学校 武道 剣道（例）

- 熱中症の危険性が少ないと考えられる場合においては、マスクの着用も考えられる。ただし、生徒の呼吸が苦しい様子が見られる場合には、マスクを外すように指導する。
- 活動中に発声は極力控える。
- 防具が共用の場合は、当面の間、面と小手の着装は控える。

学習指導要領及び解説に示されている内容〔技能〕		人数	時間	留意点
基本動作	構えと体さばき	特定の相手	相手と向かい合って実施する活動は、活動時間の一定の割合（1/3程度）とする。	・隣のペアとの身体的距離を確保する。 ・防具を着装しない場合は、基本動作や基本となる技等について、形により学習することが考えられる。 ・安全確保のため、特に防具を着装しない場合は、竹刀や木刀の取扱いには十分に留意させる。
	基本の打突の仕方と受け方			
・基本となる技 ・得意技	しかけ技			
	応じ技			
攻防	・自由練習 ・試合	特定の少人数 （1組3名程度）		・防具を着装しない場合は、攻防として、基本動作や基本となる技等の出来映えを競う判定試合などを実施することが考えられる。

小学校 ボール運動系 ゴール型 / 中学校・高等学校 球技 ゴール型（例）

- 近接する場面が発生する学習活動については、活動時間の1/3程度とする。
- ゲームなどを実施する場合は、近接する場面の頻度が多くなならないよう、移動できるエリアを制限するなどの工夫をすることも考えられる。
- 活動中は不必要に大声を出さないように指導する。

中学校・高等学校

学習指導要領及び解説に示されている内容〔技能〕		人数	時間	留意点
ボール操作	シュート	特定の少人数 (3～5名程度)	特段の制限なし	・相手との身体的距離を確保する。
	パス			
	ボールキープ			
空間に走り込むなどの動き	ゴール前の空いている場所に走り込む動き		・近接を伴う活動は、活動時間の一定の割合(1/3程度)とする。	・近接する場面の頻度が多くなならないように工夫する。 ・移動できるエリアを制限してボールを取り合うなどの工夫が考えられる。
	ボールを持っている相手をマークする動き			
空間を作りだすなどの動き	味方から離れる動きや人のいない場所に移る動き			
	相手の動きに対して、相手をマークして守る動きと所定の空間をカバーして守る動き			
空間を埋めるなどの動き	相手の守備を見ながら自陣から相手ゴール前の空間にバランスよく侵入する動き			
	空間を作り出す攻撃をさせないように、突破してきた攻撃者をカバーして守ったり、相手や味方の位置を確認して、ポジションを修正して守ったりする動き			
攻防	ゲーム	・特定の少人数 (3～5名程度) ・特定のチーム同士で実施する。		

ウ 保健における留意点¹⁷⁾

各教科等に共通する感染のリスクが高い活動として、「生徒が長時間、近距離で対面形式となるグループワーク等」及び「近距離で一斉に大きな声で話す活動」が考えられます。その他にも、身体的接触、マスクを外して行う運動など、感染リスクの高い活動については、地域の感染状況等に応じて、対応することが必要です。

授業設計力チェックリスト¹⁹⁾ ～指導計画作成にむけて～

そう思う：4 ややそう思う：3 ややそう思わない：2 そう思わない：1

/80

授業設計力に関する項目（20項目）	学習指導要領への理解	今改訂の趣旨を理解している	
		学習指導要領と解説の違いを理解している	
		学習指導要領解説から指導する内容を読み解くことができる	
		年間指導計画を作成する際の領域及び領域の内容の取扱いを理解している	
	カリキュラム・マネジメント	教科、教科外、学校教育活動の違いをイメージできる	
		年間指導計画を作成できる	
		2年間の指導内容から単元の指導事項の重点化の図り方を理解している	
		単元計画(一定のまとまりの時間)の作成方法を理解している	
	単元計画力	単元構造図を用いて単元計画を示すことができる	
		3つの資質・能力を育成する授業設計ができる	
		診断的評価、形成的評価、総括的評価をイメージした単元設計ができる	
		指導内容に適した教材や学習方法がイメージできる	
	評価規準	評価規準の語尾表記の仕方を理解している	
		単元の評価規準が作成できる	
		指導と評価のタイミングを図った評価計画を立てることができる	
		観点に応じた具体的な評価材料の収集ができる	
	教授方法、教材選択	教材の簡易化や修正する方法を理解している	
		思考力・判断力・表現力の指導事項に対応した指導スタイルや教材のイメージがもてる	
		学びに向かう力・人間性の指導事項に対応した指導スタイルや教材のイメージがもてる	
		支援を要する児童生徒への指導方法・教材がイメージできる	

授業の基本チェックリスト¹⁹⁾ ～自分の授業を振り返ってみましょう～

◆基礎条件と内容条件を備えた授業を行えるようになれば、よい体育授業を行えるようになります。以下に示す条件を頼りに、ご自身の授業を振り返り、授業の改善に役立ててください。

●「基礎的条件」¹²⁾

よい体育授業を実現するための土台となる条件であり、学習成果を上げるための前提的な条件です。子どもたちがテキパキと行動し、授業の流れがよい「学習の勢い」と、子ども同士の関係も良好で明るく感情豊かな行動が出現する「学習の雰囲気」の2つの要因で構成されます。

そう思う：4 ややそう思う：3 ややそう思わない：2 そう思わない：1

/96

授業実践力に関する項目・基礎的条件（24項目）	マネジメント	出席や点呼などリズムよく無駄な時間をかけず実施している	
		準備、片付け、集合などオフタスク(授業従事外の時間)が最小限である	
		繰り返しが必要な基礎的な学習を毎時組み込んでいる	
		本時のねらいや生徒の活動の見通しを示している	
	話し方の技術	40人程度が入る教室であればマイク使わず隅々まで声が通る	
		聞き取りやすく活舌よく話している	
		抑揚をつけて話すなど重要なポイントを強調して相手に伝えられる	
		安心感のある周囲が話やすい雰囲気を作り出すことができる	
	ノンバーバル技術	相手の顔や目を見て話すようにしている	
		他者に伝える際、身振りや手ぶりを意識して使っている	
		安心感のある参加しやすい雰囲気づくりを心がけている	
		視点は、絶えず全体を見渡し、理解が不十分な参加者の細かい表情を見逃さない	
	板書技術	最後列の人でも文字が判別できる大きな字を書いている	
		黒板に、丁寧で読み取れる字を書いている	
		必ず直筆の板書を取り入れている	
		複数の色を使い分けている	
	個別支援	説明後は机間巡視をして理解状況を確認している	
		個別支援の際に、全体の進行が滞らない	
		障害や学力の違いに応じた配慮をしている	
		良さを伝えるなど肯定的働きかけをしている	
	健康安全管理	運動種目に起きやすい怪我の事例と予防策を理解している	
		気温や天候の変化に応じた指示をしている	
		運動時には、人数や動きの制限など安全な場の確保をしている	
		危険を察知した時に、安全行動の確認やルール等の修正を即時にしている	

●「内容的条件」¹²⁾

体育授業の内容的な側面の良し悪しを問うときに求められる条件のことで、設定した学習目標・内容は学習者に明確に伝わっているか、教科目標や単元目標との関係から見てよかったのかなど、授業の目標や内容の妥当性からみた条件のことです。

そう思う：4 ややそう思う：3 ややそう思わない：2 そう思わない：1

/96

授業実践力に関する項目・内容的条件（24項目）	発問・応答	児童生徒の興味や思考が揺さぶられる問いがある	
		回答の浮かばない児童生徒に問いの修正をして思考を促している	
		答えの得やすい特定の児童生徒に頼らず発問をしている	
		支援を要する児童生徒にも状況に応じた発問をしている	
	称賛・受理	良い回答や動きに対して「何が良いか」を添えて称賛している	
		教員の意図しない回答についても感情を抑制し受け止めている	
		間違った回答や動きに対して、すぐに否定せず前向きな姿勢を受けいれている	
		支援を要する児童生徒の尊厳を守り積極的な参加を促している	
	プレゼン技術	端的に重要なポイントを示すことができる。	
		プレゼンソフトや ICT を効果的に活用し興味を高めている	
		重要な概念を具体例を添えて強調している	
		他者作成資料は、情報活用時のマナーを遵守している	
	座学の展開力	まとめは、本時のねらいと一致している	
		対話的な活動の機会だけでなく、活動によって導かれる深い学びが保証されている	
		専門用語を用いず平易なことばで説明している	
		科学的根拠に基づく事例や事象を適切に取り上げている	
	実技の技術指導	良い動きとつまずきのポイントを身体で表現できる	
		動きを分節化(局面を強調)して師範できる	
		動きのポイントをわかりやすく言語化している	
		観察から、個に応じたつまずきの改善策をみつけている	
	教材展開力	ねらいに一致した教材が提供されている	
		児童生徒の状況に応じて課題が選択できる工夫をしている	
		教材を提供する際、行い方の説明だけでなく、何のためかが説明されている	
		児童生徒の学びに応じて、臨機応変に教材を入れ替えたり時間の調整をしたりしている	

授業省察力チェックリスト¹⁹⁾ ～授業改善にむけて～

◆ご自身の授業を振り返り、評価・改善する「省察力」のチェックリストです。授業改善への視点としても役立ててください。

/48

そう思う：4 ややそう思う：3 ややそう思わない：2 そう思わない：1

授業省察力に関する項目（12項目）	設計への省察	授業設計力についての省察力 本時の学習指導案と学習指導要領解説(目的、内容、内容の取扱い)と整合しているかを確認できる	
		授業設計力についての省察力 単元構造図を見て、指導時期、評価機会、指導方法、教具・教材の一致度を確認できる	
		授業設計力についての省察力 授業後に、単元構造図(指導と評価の計画)の修正点、改善点を提案できる	
		授業設計力についての省察力 学習評価情報から、評価規準の設定や評価方法、指導や支援方法の修正点、改善点を提案できる	
	実践への省察（基礎的条件）	授業の基礎的条件についての省察力 発声、板書、視線、授業の進行スピードなどの基本的教授行動の成果や修正点を指摘できる	
		授業の基礎的条件についての省察力 学習規律、マネジメントを振り返り、成果や修正点を提案できる	
		授業の基礎的条件についての省察力 受容的雰囲気、肯定的人間関係の様子を振り返り、成果や修正点を提案できる	
		授業の基礎的条件についての省察力 児童生徒の発言や机間巡視時の応答を振り返り、成果や修正点を提案できる	
	実践への省察（内容的条件）	授業の内容的条件についての省察力 発問や追加発問の適切さと称賛技術について成果と課題を提案できる	
		授業の内容的条件についての省察力 プレゼンテーション技術の適切さとより効果的な活用方法について提案できる	
		授業の内容的条件についての省察力 指導内容の具体化について、児童生徒の実態に応じた簡易化や根拠ある説明など、その適切さを指摘できる	
		授業の内容的条件についての省察力 観察した授業から、今後の自身の授業改善に役立てるよう総括できる	

【引用・参考文献】

- 1) 文部科学省. 中学校学習指導要領 .2017 P.115、124、125、126
- 2) 文部科学省. 中学校学習指導要領解説 保健体育編 .2016 P.14、22、23、25、36、202、216
- 3) 中央教育審議会. 幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申） .2016 P.26、28、30、188、191
- 4) 中央教育審議会. 幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）補足資料 .2016 P.7、13
- 5) 文部科学省. 国立教育政策研究所教育課程研究センター. 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校 保健体育 .2020 P.6、8、9、10、27、31、41、43、44、47、54、55、56、61、82、90
- 6) 文部科学省. 中学校学習指導要領解説 総則編 .2017 P.77
- 7) 神奈川県立総合教育センター. カリキュラム・マネジメントで改善・充実の好循環へ .2017 P.5
- 8) 神奈川県立体育センター. 高等学校保健体育 体育学習ハンドブック～学習指導と評価の計画作成の手引き～ .2013 P.11、27
- 9) 神奈川県立体育センター. 保健学習ハンドブック＜改訂版＞ .2012 P.12
- 10) 文部科学省 小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）〔別紙4〕各教科等・各学年等の評価の観点等及びその趣旨（小学校及び特別支援学校小学部並びに中学校及び特別支援学校中学部）.2019 P.19
- 11) 横浜国立大学教育人間科学部附属教育デザインセンター. 若手の先生に贈る20のメッセージ .2012 P.34
- 12) 岩田靖, 吉野聡, 日野克博, 近藤智靖 編著 . 初等体育授業づくり入門. 大修館書店 .2018 P.58、81、82
- 13) 佐藤豊（鹿屋体育大学）. 単元構造図を活用して指導計画を作成する中学保健体育科ニュース .2014 P.5
- 14) 中央教育審議会. 児童生徒の学習評価の在り方について（報告）. 2019 P.3、4、5
- 15) 文部科学省. 国立教育政策研究所教育課程研究センター. 学習評価の在り方ハンドブック 小・中学校編 .2019 P.4、5、6、9
- 16) 文部科学省. 学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル～「学校の新しい生活様式」～(2020.12.3 Ver.5) P.13
- 17) 文部科学省. 新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づく緊急事態宣言を踏まえた小学校、中学校及び高等学校等における新型コロナウイルス感染症への対応に関する留意事項について（通知）.2021 P.4、5
- 18) スポーツ庁. 今年度の体育における学習活動の取扱いについて .2020
- 19) 佐藤豊. 授業設計力分析シート

【県立総合教育センター体育指導センター指導研究課 体育・保健体育教材について】

指導研究課では、保健体育の授業づくりに役立つ教材を作成しています。

- ・ 中学校保健体育単元作成シート
- ・ 授業づくりハンドブック など

県立総合教育センターウェブサイトからダウンロードすることができます。

<https://www.pen-kanagawa.jp/edu-ctr/kenkyu/taiikukyoza.html>

【学習指導要領等関係資料について】

学習指導要領や「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」などは、文部科学省や国立教育政策研究所のウェブサイトから閲覧が可能です。

- 1 文部科学省 平成29・30・31年改訂学習指導要領（本文、解説）
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm
- 2 国立教育政策研究所 教育課程研究センター 指導資料・事例集
<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryu.html>
- 3 文部科学省 幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）（中教審第197号）
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1380731.htm
- 4 文部科学省 新型コロナウイルスに関連した感染症対策に関する対応について 幼小中高・特別支援学校に関する情報
https://www.mext.go.jp/a_menu/coronavirus/mext_00015.html

本ハンドブックは、神奈川県立総合教育センター体育指導センターが作成しました。

研究アドバイザー（職名は令和３年３月現在）

佐藤 豊 桐蔭横浜大学 スポーツ健康政策学部 スポーツ教育学科 教授

作成担当

神奈川県立総合教育センター体育指導センター指導研究課

竹村 健二 内藤 誠 三橋 周作 熊崎 貴之 福地 真一 千葉 周平 福澤 次郎
西塚 祐一 田村 幸久 瀬尾 一幸 田所 克哉

中学校の先生のための
保健体育科授業づくりハンドブック
～授業設計力向上に向けて～

発行

令和３年８月

発行者

神奈川県立総合教育センター体育指導センター

〒251-0871 神奈川県藤沢市善行 7-1-2

TEL (0466) 81-2572 (代表)